

国際仏教学大学院大学研究紀要
第 28 号 (令和 6 年)

Journal of the International College
for Postgraduate Buddhist Studies
Vol. XXVIII, 2024

北欧に所蔵される
仏典写本・版本のコレクション概観
— 目録を中心として —

末 木 康 弘

北欧に所蔵される 仏典写本・版本のコレクション概観 —目録を中心として—

末木 康弘

仏典写本・版本はアジア圏のみならず、欧米諸国やロシアにも多数所蔵され、それら所蔵機関により目録、解題等が提供されているが、その全容を知ることは容易でない。

本稿では、仏典研究の一助となるべく、北欧に所蔵される仏典写本・版本の目録・解題等の利用ツールについて検討するとともに、資料収集の歴史を辿り、特定のコレクションやコレクター、目録編纂者や関連する人物について特筆すべき事柄があれば適宜言及する。

本文にて引用する資料については、冒頭に資料番号を付与し、インターネット上に公開されている資料・情報については URL を表記した。筆者が編纂する "Bibliographical Sources for Buddhist Studies: from the Viewpoint of Buddhist Philology" (以下、BSBS と略す。) Version 3.2 (2024 年 4 月公開予定) に収録されている資料・情報については、そのレファレンス番号を示すとともに、本学附属図書館が所蔵する資料については、請求記号を略号 Lib. のもとに合わせて表示した。

現在まで北欧において仏典写本・版本の所蔵が確認され、目録・解題等が提供されている機関は、管見によれば以下の通りである。

1. デンマーク王立図書館 (Royal Danish Library, Copenhagen)
2. ヘルシンキ大学図書館 (Helsinki University Library, Helsinki)
2006 年にフィンランド国立図書館 (National Library of Finland) と改称。
3. スウェーデン国立図書館 (National Library of Sweden, Stockholm)
4. 民族学博物館 (Museum of Ethnography, Stockholm)
5. ウプサラ大学図書館 (Uppsala University Library, Uppsala)

6. オスロー大学図書館 (University of Oslo Library, Oslo)

ノルウェーには、アフガニスタンのバーミヤン渓谷で発見された、サンスクリット語、あるいはガンダーラ語で書かれた最古の仏典写本を所蔵する、British Library 所有のコレクションとともに「仏教の死海文書」と称される Martin Schøyen のコレクションもあるが、本稿では言及しない。本コレクションの概要については、研究グループによる近年の報告と Website を参照されたい¹。

1. デンマーク王立図書館 (Royal Danish Library)

1648年創立のデンマーク王立図書館（以下、王立図書館と略す。）は、首都コペンハーゲンに所在し、サンスクリット語、パーリ語、チベット語、モンゴル語、漢語の仏典資料を所蔵する。

デンマークの著名な印欧語比較言語学者 Rasmus Rask (1787-1832)²は、デンマーク国王 Frederick 6世 (1768-1839) の資金提供により、1816年よりロシア、アルメニア、ペルシャ、インドへの長い資料調査旅行を行い、最終地のセイロンには1821年11月12日に到着し、約9ヶ月間滞在した³。Rask のセイロン訪問の目的は、パーリ語とシンハラ語の研究と写本収集であった。Rask は同年12月20日に Colombo Literary and Agricultural Society (1845年 Ceylon Branch of the Royal Asiatic Society と改称。)の名誉会員に選出されている⁴。Rask は George Nadoris de Silva (1768-1843) の下でパーリ語とシンハラ語を学習し、入手すべき223点のパーリ語とシンハラ語の写本リストを1822年1月末に作成し⁵、それを基に同氏の協力により写本を収集した⁶。Nadoris は元仏教僧で、キリスト教への改宗前の名前

¹ Matsuda (松田), 2010, 2020, Braarvig 2014. Website: <https://www.schoyencollection.com/>

² 印欧比較言語学における Rask の業績については Kazama (風間) 1978, 第4章「言語は変化する ポップ、ラスク、グリム」を参照。

³ Rask は、1822年8月19日にコロンボを出航している。資料番号 1-003, p. lviii.

⁴ 同上, p. xliii.

⁵ この時既に Nadoris の協力により、最初の写本を購入していた。Nordstrand 1974, p. 71.

⁶ *Ibid.*

は Rājaguru Dhammakhandha であった。Rājaguru は、同氏が 1807 年から 1810 年にかけてパーリ語の研鑽のため、ビルマに滞在していた時にビルマ王より授けられた称号である⁷。Nadoris は、ビルマより多くのパーリ語写本を将来し、同氏の寺院 Vālukārāma Vihāraya に収蔵した。Rask の日記によると、同寺院には約 500 冊の書物があり、その大半がビルマ文字パーリ語写本であった⁸。Rask のコレクションでビルマ文字写本は、Nadoris より譲渡された同寺院旧蔵写本である⁹。Rask は、コロンボの Wesleyan Mission の図書館が所蔵する貝葉写本を利用して研究していたが、王立図書館所蔵の当時 Rask が作成したノートを基に、同図書館が所蔵する貝葉写本リストが復元されている¹⁰。Rask は、Wesleyan Mission の宣教師で 1814 年より 1838 年までセイロンで活動した Benjamin Clough (1791-1853) が著述した『簡明パーリ語文法』の序章を匿名で執筆した¹¹。Clough も Rask の写本収集に協力している¹²。Rask は 1822 年 3 月末頃に帰国を試みたが、船舶がセイロンの南西沿岸で難破し、写本以外の荷物を失ったが、滞在が 4 ヶ月延長されたことにより、さらに多くの写本を収集することができ¹³、シンハラ文字の入門書をデンマーク語で出版することもできた¹⁴。Rask は、1823 年 5 月にデンマークに帰国した後、初心者向け、読本付きのパーリ語文法を出版する意向であったが、出版さ

⁷ 資料番号 1-003, p. 113, Young and Somaratna 1996, p. 54-55.

⁸ 資料番号 1-003, p. 61. 1822 年 4 月 17 日付の日記。

⁹ 同上, p. 113.

¹⁰ Nordstrand *op. cit.*, p. 72-73.

¹¹ 1824 年に Wesleyan Mission Press より出版された "A compendious Pali grammar" である。 *Ibid.*, p. 70, Kristensen 1966, p. 35. 本書がヨーロッパに届いたのはかなり後であり、E. Burnouf と Ch. Lassen 共著の『パーリ語試論』(Essai sur le Pali. Paris. 1826) の著述に両名は本書を利用できなかった。de Jong 1997, p. 22-23. Clough は "A dictionary, English and Sinhala" (1821) も出版したが、Rask はこの辞書編集にも協力している。資料番号 1-003, p. lx-lxii.

¹² 資料番号 1-003, p. lviii-lxiii.

¹³ 同上, p. xvii.

¹⁴ Rask 1821. 本書の標題紙に出版年は 1821 年とあるが、実際に印刷が完了したのは、帰国 2 日前の 1822 年 8 月 17 日であった。同上, p. xvii, lxii-lxiii.

れることはなかった¹⁵。Rask 収集写本は 1824 年にデンマーク国王より王立図書館に寄贈された¹⁶。

Rask が国王に提出したパーリ語とシンハラ語写本のリストは、1827 年にコペンハーゲン大学文学講座教授の Christian Molbech (1783-1857) により出版された¹⁷。このデンマーク語の報告書の主要部分をフランス語訳したのは Antoine-Isaac Silvestre de Sacy (1795-1838)¹⁸, Antoine-Léonard de Chézy (1773-1832)¹⁹, Eugène Burnouf (1801-1852)²⁰, Jean-Pierre Abel-Rémusat (1788-1832)²¹ 等の薫陶を受けたベルギー生まれのインド学者 Eugène Jacquet (1811-1838)²² であった。Jacquet は、Rask による正書法と翻字を修正して、パーリ語とシンハラ語写本のリストを提示した²³。さらに、Nadoris 旧蔵のビルマ文字パーリ語写本"Kammavācā"に注目した Jacquet は、この写本について'observation du traducteur'との見出を付して所見を述べ、附録 (1) で当時ヨーロッパにおいて同様の写本を所有する、イギリスの Sussex 公

¹⁵ Andersen, 1924, p. iii. Rask が帰国後に最初に著述したのは、スペイン語の文法書であった。Kristensen *op. cit.*, p. 35.

¹⁶ Jacquet 1830, p. 453. Molbech 1827 の翻訳部分。

¹⁷ Molbech 1827. Molbech は、学術誌"Nordisk tidsskrift scerdeles for historie, literatur og konst"を 1827 年より 1836 年までに 4 冊発行した。Dansk Biografisk Leksikon. https://biografiskeksikon.lex.dk/C_Molbech Molbech の報告は、本誌の創刊号に収録されている。

¹⁸ de Sacy は東洋語学校 (École spécial des langues orientales) の初代アラビア語教授。後にペルシャ語の教授も兼任した。

¹⁹ Chézy は 1814 年 Collège de France に創設された初代サンスクリット語・文学講座の教授である。ヨーロッパを襲ったコレラに罹患し、1832 年に逝去した。

²⁰ 近代仏教学の祖と称される Burnouf は、Chézy の後継として 1832 年 Collège de France 第 2 代サンスクリット語・文学講座の教授に就任した。

²¹ Abel-Rémusat は 1814 年 Collège de France に創設された、ヨーロッパで最初の中国学講座の教授であり、ヨーロッパにおける中国学の基礎を築いた。Abel-Rémusat もコレラに罹患し 1832 年に逝去した。

²² Jacquet の生涯と業績については、ベルギーのルーヴアン大学にてサンスクリット語を教授した Félix Nève (1816-1893) が一書を上梓している。Nève 1856.

²³ Jacquet *op. cit.*, p. 454-456, 459-461. この論攷については、Nève *op. cit.*, p. 53-54 に解題されている。

爵図書館(The Sussex Library in Kensington Palace)所蔵のビルマより将来された"Kammavācā"写本について同図書館の所蔵目録²⁴を参照して報告し、附録(2)では、Raskが収集したパフラヴィー語写本に関する1823年の報告から内容を抜粋し論究している。このJacquet論文で、写本に対する注記の一部は師であるBurnoufが執筆した²⁵。Jacquetは27歳を一期として夭折したが、自身が所持していたサンスクリット語とパフラヴィー語[資料]のコピーとメモ、そして未完著作のすべてをBurnoufに遺贈した²⁶。

インドとセイロンにてRaskが収集した写本を主とするインド語写本目録は、『デンマーク王立図書館所蔵東洋語写本』(Codices orientales Bibliothecae Regiae Havniensis)の第1巻として、コペンハーゲン大学インド並びに東洋諸語文献学の初代教授Niels Ludvig Westergaard(1815-1878)²⁷の編纂により1846年に出版された。

²⁴ Pettigrew 1827, p. cclxxvii-cclxxxii.

²⁵ Burnouf執筆の注記には、文末にE. B.と署名が付されている。Burnoufが注記(3)にて引用した写本は、Burnoufが前年の1829年に報告したCharles Bédouin(1805-1881)がパリに将来したビルマ文字写本である。Bédouin将来写本についてはBurnouf 1829を参照。

²⁶ Feer 1899, p. xvii, Sixième section: Travaux de divers orientalistes, etc. Nos. 106-109: Travaux de Eugène Jacquet, p. 101-103. BurnoufはJacquetの申し出を受け、ネパールのBrian Houghton Hodgson(1800-1894)に仏典写本の送付を依頼している。1835年1月20日付BurnoufのHodgson宛書簡。*Ibid.*, p. 151. アジア協会(Société Asiatique)の会員であったJacquetは、1837年Hodgsonより同協会へ寄贈された24点の仏典写本の調査をBurnoufとともにするよう、同協会より命じられている。1837年6月5日付の同書簡。*Ibid.*, p. 157.

²⁷ 原實はWestergaardについてStrandberg 1978を参照し、「彼はインド土着文法、辞書学研究に貢献したが、又Asoka王碑文、Avestaの研究にも従事し、広くインド文化を紹介してDenmarkインド学の礎石を築いた。」と評す。Hara 1987, p. 076. 同Strandbergの記述によると、Westergaardは印欧比較言語学と東洋学の研究を目指していたが、大学入学前年の1832年にRaskが逝去したため、外国留学を決心し、最初にボン大学のChristian LassenとLassenの師であるAugust Wilhelm von Schlegel(1767-1845)に師事し、サンスクリット語、アヴェスター語とペルシャ語を学習し、後に1841年より1844年までRaskと同様にペルシャとインドを旅行し、碑文の拓本や写本を収集して研究に利用した。Strandberg *op. cit.*, p. 6.

1-001.

Codices indici Bibliothecæ Regiæ. Jussu et auspiciis Regis Daniæ augustissimi Christiani octavi enumerati et descripti a N. A. Westergaard. Havniæ: Berling, 1846. ix, 122 p. (Codices orientales Bibliothecæ Regiæ Havniensis, 1)

https://books.google.co.jp/books?id=13YIAAAAQAAJ&redir_esc=y

Codices Sanscriti, 1-16 (35 点), Codices Palici, 17-60 (57 点), Codices Eluici et Singhalenses, 61-79 (42 点)等。

(BSBS C1.2.5.1.001, Lib. V929.8100/CO)

パーリ語写本については、ボン大学にて Christian Lassen (1800-1876) の下でパーリ語を修得した Friedrich von Spiegel (1820-1905)²⁸により編纂された²⁹。三蔵は、律・経・論の順に配列されている。セイロンにて収集されたシンハラ文字のサンスクリット語仏典も含む³⁰。

T. W. Rhys Davids (1843-1922)³¹は、上記資料番号 1-001 に収録されたパーリ語写本のみを抜き出したリストと共に、V. Fausbøll (1821-1908)³²より提

²⁸ 王立図書館所蔵のパーリ語写本を利用した研究を最初に出版したのも Spiegel であった。de Jong 1997, p. 23, Spiegel 1845. Spiegel は、後に古代イラン学とゾロアスター教研究に転向して多くの業績を残し、ドイツ語圏におけるパイオニアとして、古代イラン学の基盤を築いた。Schmitt 2002.

²⁹ de Jong *op. cit.*, p. 23.

³⁰ 資料番号 1-001, p. 12.

³¹ Rhys Davids は、1881 年にパーリ語聖典協会 (Pali Text Society, 略称"PTS") (Website: <https://palitextsociety.org/>)を設立し、夫人の Caroline Rhys Davids (1857-1942) はじめ世界の学者の協力を得て、多くのパーリ語聖典の校訂本と英訳、研究紀要、パーリ語辞典を出版した。同協会の歴史に関する著作については BSBS L2.2.9.1. Pali Text Society, Bristol を参照。

³² Fausbøll は、師である Westergaard の奨めにより 1855 年に"Dhammapada"のテキストとラテン語訳を出版した。厳密な異本校訂と注釈書による注記を施した本書は、学術的価値のある世界最初のパーリ語原典出版であった。Andersen *op. cit.*, p. iii. これにより、Fausbøll はデンマークのみならず、世界における近代パーリ学の建設者と仰がれるに至った。Mizuno (水野) 1959, p. 197, Mayeda (前田) 1962, p. 110. さらに同氏は、1877 年から 20 年の歳月をかけ、苦心して出版資金を得ながら"Jātaka"のテキスト全 7 冊を PTS より出版し、不朽の業績を残した。第 7 冊は、弟子の Dines Andersen (1861-1940) 作成の索引である。前田惠學 (1926-

供された、コペンハーゲン大学図書館 (University Library of Copenhagen 以下、大学図書館と略す。) が所蔵する 8 点のパーリ語写本リストを出版した。

1-002.

T. W. Rhys Davids: List of Pāli manuscripts in the Copenhagen Royal Library. In: JPTS, 1883, 147-149.

<http://archive.org/details/1883journalpa100paliuoft/page/147/mode/1up?view=theater>

(BSBS C1.2.5.1.002)

上記の『デンマーク王立図書館所蔵東洋語写本』は、1846年から1857年にかけてインド語をはじめ、ヘブライ語とアラビア語、ペルシャ語等計3冊が出版された。王立図書館ではその後も多くの写本が収集されるに至り、最新の文献学的方法による書誌記述を備えた新たな目録の編纂が、コペンハーゲン大学中央アジア研究所所長Kaare Grønbech (1901-1957)³³を代表とする編纂委員会により考案され、叢書名は"Catalogue of Oriental manuscripts, xylographs etc. in Danish collections (COMDC) (以下、

2010) は、「かれのラテン文字による表記法は、その後大きな變改をうけることなく、今日一般に歐米におけるパーリ語出版の標準として受け容れられている。」と記す。同上。Fausbøll は、1861 年より王立図書館の助手であったが、1878 年に師である Westergaard の後継として教授に就任した。同氏にとって 50 年以上に及ぶ写本研究は目には大きな負担となり、晩年はほとんど盲目であった。Kristensen *op. cit.*, p. 35, Strandberg 1980, p. 100. Fausbøll については、1900-1910 年までドイツに留学していた渡辺海旭 (1872-1933) が 1908 年に綴った追悼文もある。Watanabe (渡辺) 1933 (再録), p. 388-392. 1903 年に Fausbøll の跡を継いだ D. Andersen は、スウェーデンの Helmer Smith (1882-1956) と共に V. Trenckner (1824-1891) によりはじめられた"A critical Pāli dictionary (略称 CPD)"の編纂に尽力した。Mayeda (前田) 1961, p. 98-100, 1962. 1916 年に組織的に開始された CPD 編纂プロジェクトは、編纂者の代を重ね、約 1 世紀に亘り事業を継続してきたが、諸事情により第 3 卷 (2011 年刊) をもって終了した。Oskar von Hintüber が CPD 最終冊の "Concluding Remarks" にて CPD の編纂史を略述しているので参照されたい。https://cpd.uni-koeln.de/intro/vol3_concluding_remarks ドイツのケルン大学は、PTS の協力を得て、2016 年より CPD の Online 版を提供している。<https://cpd.uni-koeln.de/Trenckner> については、Andersen 1924 を参照。

³³ Grønbech の業績については、CAJ, 3, 1 (1957), p. 1-18 を参照。

"COMDC"と略す。)と命名された³⁴。この叢書は、タイトルが示すように、デンマークにおける総合目録であり、王立図書館の他、デンマーク国立博物館 (National Museum of Denmark 以下、国立博物館と略す。)と個人のコレクションも収録されている。

"COMDC"第1冊としてシンハラ文字で記述された、シンハラ語、シンハラ語の祖語として知られるエル語 (Eḷu)、パーリ語とサンスクリット語写本の目録は、イギリスのセイロン考古学局長 (Commissioner of Archaeology Department of Ceylon) の Charles Edmund Godakumbura (1907-1977)³⁵ の編纂により 1980 年に出版された。

1-003.

Charles Edmund Godakumbura: Catalogue of Ceylonese manuscripts. Copenhagen: Royal Library, 1980. lxxvii, 321 p., 51 p. of plate. (COMDC, 1)

<https://www.kb.dk/en/find-materials/collections/oriental-collection/catalogues-oriental-manuscripts-denmark>

English translation of Rasmus Rask's diary in Ceylon, 1821-1822, p. lviii-lxiii.

Review: Oskar von Hinüber in ZDMG, 132 (1982), 448, C. B. H. Reynolds in BSOAS, XLV (1982), 212-213, J. W. de Jong in IJ, XXV (1983), 152-153, Jacqueline Fillionat in BEFEO, LXXIII (1984), 397-398, Heinz Bechert in OLZ, 80 (1985), 75-77.

(BSBS C1.2.5.1.004, Lib. R180.321/GO)

本目録には、Rask コレクションの他、王立図書館に移管された大学図書館と個人のコレクション、国立博物館所蔵写本が収録され、大学図書館のコレクションには、Fausbøll が "Jātaka" の校訂に利用した写本も含まれている³⁶。パーリ語三蔵は、律・経・論の順に配列され、その他のテキ

³⁴ 資料番号 1-003, p. xiv-xv. COMDC の叢書標題紙には、Founded by Kaare Grønbech と表記されている。

³⁵ Godakumbura は、ロンドン大学の SOAS にて M.A. (1938), PhD (1945), DLitt (1954) を取得した。U Tin Lwin 1976, p. 167, J. W. de Jong, IJ, XXV (1983), p. 152. Godakumbura は、シンハラ語文献の概説書も出版している。Godakumbura 1955. de Jong は、本書は未だに最も包括的な著作と評す。de Jong *op. cit.*

³⁶ 資料番号 1-003, p. xviii.

ストは言語別、主題別の配列となっている。書誌記述は、テキスト名、写本番号、写本の形状、関連する校訂本、翻訳と研究に関する書誌情報、テキストの冒頭部分とコロフォンの翻字等であり、巻末の索引部には国立博物館所蔵分の写本リスト、紀年を有する写本リスト、写経生索引、タイトル索引、固有名詞索引等諸種の索引が完備されている。前述の Rasmus Rask のセイロン滞在日記の英訳も序論に掲載されている。49 点の図版も収録され、写本、Rask のセイロン滞在日記とシンハラ文字の入門書、Fausbøll と Trenckner のパーリ語の速記法を記したノート等の見本頁も掲載されている。Godakumbura による長文の序論では、セイロンにおける文献史をはじめ、貝葉写本の概要等が詳述されている。

44 点のクメール文字と 66 点のビルマ文字のパーリ語写本目録は、Charles Edmund Godakumbura が主編者となり、ビルマ文字写本についてはビルマのマンドラレー大学 (University of Mandalay) パーリ学教授 U Tin Lwin の協力を得て、"COMDC" の第 2 巻第 1 分冊として出版された。Godakumbura は目録の編纂途上、ビルマを旅行中ラングーンにて 1977 年 2 月 9 日に急逝したが、ドイツの専門家の協力により、原稿のゲラ刷を基に、一部翻字法を変更する等して完成を見た。目録編纂過程の事情については、ゲッティンゲン大学教授 Heinz Bechert (1932-2005)³⁷ 執筆の序論に詳述されている。

1-004.

Charles Edmund Godakumbura: Catalogue of Cambodian and Burmese manuscripts. Assisted by U Tin Lwin with contributions by Heinz Bechert and Heinz Braun. Copenhagen: Royal Library, 1983. xx, 153 p. (COMDC, 2, 1)

<https://www.kb.dk/en/find-materials/collections/oriental-collection/catalogues-oriental-manuscripts-denmark>

Review: L. S. Cousins in BSOAS, 48 (1985), 620-621, O. v. Hinüber in ZDMG, 136 (1986), 224, J. W.

³⁷ Bechert には多くの著書があるが、書誌学的業績としては、ドイツ国内に所蔵されるビルマ文字写本、シンハラ文字写本、ドイツ・トルファン探検隊が将来したトルファン出土サンスクリット語仏教写本の目録等があり、Bechert 1990 もある。

de Jong in III, 29 (1986), 324-325, Else Pauly in AO, 48 (1987), 235-239.

(BSBS C1.2.5.1.005, Lib. R180.321/GO)

書誌記述は、"COMDC"第 1 巻に準じ、索引部の大半は、H. Bechert と同じくゲッティンゲン大学の Heinz Braun (1936-2016) により作成された。

碑文学者・歴史学者であり、1958 年にフランス碑文・文芸アカデミー (Académie des Inscriptions et Belles-Lettres) の会員となった George Cœdès (1886-1969)³⁸は、タイより将来されたパーリ語とラオ語 23 点、北部タイ語 82 点、タイ語 10 点の写本目録を"COMDC"の第 2 巻第 2 分冊として編纂し、第 1 分冊に先行して 1966 年に出版した。

1-005.

George Cœdès: Catalogue des manuscrits en pâli, laotien et siamois provenant de la Thailand. Copenhagen: Royal Library, 1966. x, 116 p. (COMDC, 2, 2)

<https://www.kb.dk/en/find-materials/collections/oriental-collection/catalogues-oriental-manuscripts-denmark>

Review: K. R. Norman in JRAS, 1976, 89, Christiane Rageau in TP, LXII (1976), 141-144, Heinz Bechert in ZDMG, 130 (1980), 151-152.

(BSBS C1.2.5.1.003, Lib. R180.320/CO)

人類学者であり、チベットにおける婚姻制度を研究したギリシャ王子 H. R. H. Prince Peter of Greece and Denmark (1908-1980)³⁹は、インド西ベンガル州のカリンボン (Kalimpong) を拠点とし⁴⁰、1948 年から 1953 年にかけて

³⁸ Cœdès は、タイ国王の招聘により国立図書館の学芸員 (在任 1927-1929)、ヴェトナム・ハノイに所在していたフランス極東学院 (École Française d'Extrême Orient) 院長 (在任 1929-1947) 等、数々の要職を歴任した。東洋史学者の山本達郎 (1910-2001) は、「セデス教授は東南アジア史の領域で現在世界一の碩学であり、東南アジア史の基本的な骨組みは、同氏の研究の成果によって作り上げられたところが頗る多い。」と評す。Yamamoto (山本) 1969, p. 319. Cœdès の業績の詳細については Filliozat 1970 を参照。

³⁹ Obituary: Raymond Firth in Rain, 41 (1980), p. 13. <https://therai.org.uk/archives-and-manuscripts/obituaries/prince-peter-of-greece-and-denmark>, A. F. V. Singer in Asian Affairs, 12 (1981), p. 16. <https://doi.org/10.1080/03068378108730017>

⁴⁰ Prince Peter がセイロンと南インドにおける個人的調査を終えてカリンボンに到着したのは、1950 年 1 月であった。同年 10 月より開始された中国軍のチ

行われた第3次デンマーク中央アジア探検⁴¹にて、王立図書館と Kaare Grønbech 教授から入手を依頼されていたチベット大蔵經の Lhasa 版 Kanjur と Narthang 版 Tanjur を収集した⁴²。チベットへの入国が拒否される状況下で、ロシアのインド学チベット学者 Georg N. Roerich (1902-1960) の助力もあり、知己を得たチベット人の協力により入手した資料である⁴³。Prince Peter は、その他に収集した 66 点のチベット語資料のリストを作成している⁴⁴。王立図書館において、Prince Peter 収集資料は "Prins Peters Samling" (Prince Peter Collection) として別置された⁴⁵。

ベット進駐により、政府の役人とその家族をはじめとする多くのチベット人が国境を越えてインドに入り、一時的にカリンポンに定住した。Prince Peter of Greece and Denmark, 1954. Prince Peter がチベット人 5,000 人を対象として行った人類学的研究報告については Prince Peter & Jørgensen 1966 を参照。Prince Peter の 7 年に及ぶカリンポン滞在中の活動については、Brox & Zeitzen 2017ab を参照。Prince Peter は、当時カリンポンに滞在していた Georg N. Roerich やチェコ出身で、オーストリアのチベット学者 René de Nebesky-Wojkowitz (1923-1959) 等と親交を深めた。Brox & Zeitzen 2017a, p. 255, 258. Nebesky-Wojkowitz が収集したチベット語写本・版本は、Weltmuseum Wien (旧 : Museum of Ethnology) に所蔵され、同氏により目録が出版されている。Nebesky-Wojkowitz 1958.

⁴¹ デンマークにおける中央アジア探検は、後述する Sven Hedin の中央アジア探検にも参加した Henning Haslund-Christensen (1896-1948) を隊長として、第1次が 1936-1937 年に西満州、第2次が 1938-1939 年に内モンゴルにおいて行われた。第3次探検は 2 隊が編成され 第1隊は Haslund-Christensen が隊長としてアフガニスタンの調査、第2隊は Prince Peter が Haslund-Christensen に指名され、隊長としてチベット周辺を調査した。当初の計画であったチベット横断は、政治・軍事的緊張下では困難であった。Haslund-Christensen は、探検途中カブールにて心不全により逝去し、同地に埋葬された。墓地は、中央アジア探検の先駆者 Aurel Stein (1862-1943) の墓の隣にある。Prince Peter of Greece and Denmark *op. cit.*

⁴² Prince Peter of Greece and Denmark, 1955. Prince Peter が収集したチベット民族の工芸品は、国立博物館に所蔵され、その他の収集品とともに目録が出版されている。Jones 1996. Prince Peter の著作物については、同書 p. 448-450 を参照。

⁴³ Kanjur には 2 巻の破損部分があったが、Giuseppe Tucci (1894-1984) の計らいで、後にマイクロ写真で補填された。Prince Peter of Greece and Denmark, 1955, p. 119.

⁴⁴ *Ibid.*, p. 120-123.

⁴⁵ *Ibid.*, p. 124.

内モンゴルへの第2次デンマーク中央アジア探検に加わった後述する Werner Jacobsen もチベット語資料を収集した。中国の四川省とチベットとの国境にて宣教師として四半世紀に亘り活動し、東チベットを 1908年5月31日-8月25日、1918年、1922年5月9日-7月24日と3回宣教の旅をしたノルウェー出身の Theo Sørensen (Theodor August Christian Sørensen 1873-1959)⁴⁶が収集したチベット語資料の大半は、後述するオスロー大学図書館に寄贈されたが、埋蔵經典の *Mañi bka' 'bum* 金文字写本は王立図書館に寄贈された⁴⁷。その他、デンマークの通信事業会社、大北電信会社 (The Great Northern Telegraph Company) の技師等による収集品もある。チベット語大蔵經を含む 2,000 点を超えるチベット語写本・版本の目録は、"COMDC"第6巻として2分冊が出版された。

1-006.

Hartmut Buescher and Tarab Tulku: Catalogue of Tibetan manuscripts and xylographs, 2 vols. Richmond: Curzon Press, 2000. (COMDC, 6, 1-2)

(BSBS D2.2.6.1.001, Lib. R929.32/BU)

本目録にはサンスクリット語とチベット語の人名とタイトル索引、学僧の全集等のタイトル索引、*gZungs-'dus/mDo-mang* (陀羅尼經典を主とする小部な經典集) のコレクションについては、先行して出版された同コレクションとのタイトルの対応一覧、各収集者別に付与された資料の略号番号と本目録番号とのコンコーダンス、本目録に引用された文献リスト等が巻末に収録されている。

編纂者の一人 Tarab Tulku (1934-2004) は、国立博物館のコンサルタントとして Prince Peter が収集した工芸品の使用方法に関する情報を提供し、コ

⁴⁶ Sørensen は、1892年にヨーロッパの女性として初めて入蔵シラサを訪れた Annie Taylor (1855-1922) が率いる、インドに本拠を置く "Tibetan Pioneer Mission" と交渉し、ダーズリンとカリンボンにて2年間チベット語とチベットの宗教と習俗について学習しながら入蔵を目指したが、入国許可が出なかったため、1896年中国の成都に本拠を置く "China Inland Mission" に行き中国語を学習し、1899年には中央チベットには遠いが、宣教活動には有利な場所である康定市に移って入蔵を目指した。Sørensen の伝記については、資料番号 6-002 を参照。

⁴⁷ 資料番号 1-006, no. 1082, plate no. 6.

ペンハーゲン大学にてチベット語、後に哲学を教えた⁴⁸。

王立図書館所蔵のチベット図像の目録は、元王立図書館キュレーター Anne Burchardi 女史の編纂により"COMDC"第6巻第3分冊として出版された。

1-007.

Anne Burchardi: *Catalogue of Tibetan mandalas and other images*. Copenhagen: NIAS Press, 2016. xv, 304 p. (COMDC, 6, 3)

Review: Marco Walther in BSOAS, 81 (2018), 161-163, Amy Heller in RET, 45 (2018), 229-232.

(BSBS D2.2.6.1.002, Lib. R180.321/BU)

本目録には、上記資料番号 1-006 に収録されなかった残余のチベット語写本・版本も採録されている。

王立図書館の"Digital Collection"では、現在 10 点のチベット語写本の画像が公開されている⁴⁹。その多くは、Prince Peter 収集資料である。

モンゴル語写本・版本の目録は、モンゴル文学の泰斗、ドイツの Walther Heissig (1913-2005)⁵⁰の編纂により 1971 年に出版された。

1-008.

Walther Heissig: *Catalogue of Mongol books, manuscripts and xylographs*. Assisted by Charles Bawden. Copenhagen: Royal Library, 1971. li, 305 p. (COMDC, 3)

<https://www.kb.dk/en/find-materials/collections/oriental-collection/catalogues-oriental-manuscripts-denmark>

Review: H. Franke in ZDMG, 122 (1972), 447-448, N. Poppe in CAJ, 16 (1972), 237-238, Igor de

⁴⁸ Brox & Zeitzgen 2017a, p. 28-29.

⁴⁹ <http://www5.kb.dk/manus/ortsam/2009/okt/orientalia/subject671/en/>

⁵⁰ Heissig にはモンゴル語仏典に関する多くの論著があり、書誌学の分野でもドイツ国内所蔵モンゴル語写本・版本・地図目録はじめ、ヨーロッパに所在する各機関の所蔵目録も編纂している。東洋文庫が所蔵する満州語・モンゴル語資料目録 (BSBS E2.2.11.2.001) に関する論攷 (Heissig 1966) や京都大学が所蔵するモンゴル語版本 *Tanjur* 48 巻の研究もある。Heissig 1955. 前者の論攷では、1962 年夏、日本にて大阪外国語大学図書館をはじめとする研究機関等にてモンゴル語写本・版本の所蔵調査をした結果も報告されている。Heissig については Hartmut Walravens 編纂の著書が上梓されている。Walravens 2012, c2018-c2019.

Rachewiltz in AM, 19 (1975), 264-265, Ronald H. Poelmeijer in III, 18 (1976), 331-333, J. M. Puyraimond in TP, 62 (1976), 138-141, M. Taube in OLZ, 73 (1978), 510-513.

(BSBS E2.2.5.1.001, Lib. R929.55/HE)

本書は分類目録であり、王立図書館所蔵の 550 点、国立博物館所蔵の 10 点の写本・版本が収録されている。1938 年から 1939 年にかけて行われた、内モンゴルへの第 2 次デンマーク中央アジア探検にて、前述の Kaare Grønbech が収集した資料が本コレクションの中核をなす。Heissig によると、当時の内モンゴルは日本の占領下にあり、資料は日本当局に没収されそうになったが、Grønbech が資料を大連港まで運び、発送に成功したことは最大の困難を経てのことであった。最終的に、資料はデンマークに到着したが、第二次世界大戦が勃発し、コペンハーゲン大学中央アジア研究所の設立が延期されたため、1949 年までは国立博物館に保管されていた。(p. xxiii) その他には、言語学者 Vilhelm Thomsen (1842-1927) の薫陶を受けた Kurt Wulff (1881-1939) が北京留学中 (1922-1924 年) に、王立図書館の要請により古書肆で購入した仏教写本・版本のコレクションも所蔵する⁵¹。Heissig によると、ロシアとモンゴル以外では最大規模のコレクションの一つである⁵²。資料の内容は、仏典、陀羅尼、仏教儀礼、仏教図像、僧院規則、全集や高僧伝、歴史書、行政文書、占星術書、医学書、辞書と文法書、民間信仰資料、民話等多岐にわたる。主に清国時代に北京で作成された写本・版本である。Heissig の序論は、王立図書館所蔵資料の概要のみならず、ロシアとモンゴルを除く世界各地のモンゴル語資料の目録情報を提供し、写本・版本の形態や筆記道具等について記述し、書体の解説をするなど詳細である。同一のテキストを他の研究機関や図書館が所蔵する場合は、その目録の参照番号が記載され、仏典の北京版本については 1954 年に出版された自著⁵³の参照番号を記載する。

⁵¹ コレクションの内容は、モンゴル語とチベット語の仏典写本・版本と漢語仏典版本である。Nordstrand 1958, p. 256.

⁵² インド・ニューデリーに所在する International Academy of Indian Culture が多くの資料を所蔵し、蔵書はすべて仏典である。p. xix.

⁵³ Heissig 1954. 1650 年より 1911 年までに北京で印刷された 219 点のチベット

占星術と医学に関する資料については、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (School of Oriental and African Studies, University of London. 略称 SOAS) の Charles R. Bawden (1924-2016)⁵⁴モンゴル学教授 (当時は講師) が分担している。モンゴル帝国皇帝 Ligdan Khan (1588-1634) の勅命により 1628 年から 1629 年にかけて編纂されたモンゴル語金文字写本 (Golden manuscript) Kanjur の零巻 (Mongol Kanjur, vol. cha, VI, p. 199-204) も国立博物館に所蔵されている⁵⁵。このモンゴル語金文字写本 Kanjur について、北欧ではスウェーデン南部に所在するリンシェーピング市図書館 (Linköping City Library) にも零巻が所蔵されていることが近年報告されている⁵⁶。

王立図書館の "Digital Collection" では、現在 14 点のモンゴル語写本の画像が公開されている⁵⁷。

サンスクリット語仏典写本は、デンマークの文化人類学者 Werner Jacobsen (1914-1979) が 1957 年から 1959 年にかけてネパールに滞在していた時期に収集したものである⁵⁸。仏典写本を含むサンスクリット語写本目録は元王立図書館員の Hartmut Buescher の編纂により 2011 年に出版された。

1-009.

Hartmut Buescher: Catalogue of Sanskrit manuscripts; early acquisitions and Nepal collection. Copenhagen: NIAS Press, 2011. xxii, 263 p., illus. (Catalogue of Oriental manuscripts, xylographs etc. in Danish collection, 7) ISBN 978-87-7694-077-5.

(BSBS B1.2.1.5.1.002, Lib. R929.8100/BU)

仏教に関するモンゴル語文献を精査した著作である。

⁵⁴ Bawden は、その他ケンブリッジ大学図書館、アバディーン大学図書館、チェスター・ビーティ図書館所蔵のモンゴル語写本・版本目録も編纂している。Bawden の業績の詳細は、Walravens 2017 を参照。Veronika Veit による Bawden の略伝はオンラインで閲覧できる。Veit 2019.

⁵⁵ Heissig 1957, p. 77-84.

⁵⁶ Borodaev 2021.

⁵⁷ <http://www5.kb.dk/manus/ortsam/2009/okt/orientalia/subject673/en/>

⁵⁸ Jacobsen はネパール滞在中に、木版の画像に関する論文を執筆している。Jacobsen 1959.

本書は分類目録であり、I. Mahāyānasūtras (15 点), II. Dhāraṇī texts (21 点), III. Tantra and Yoga にネパール写本が収録されている。巻末にタイトル索引、人名・語彙索引、写本番号と本目録番号とのコンコーダンスを付す。Rask 収集のシンハラ文字サンスクリット語写本は資料番号 1-003 に収録されているため除外されている。

王立図書館とネパール・カトマンドウの Bir Library (現在の National Archive of Nepal) が所蔵するネパール写本に使用された紙の製造法、使用法、歴史、顕微鏡による分析等の研究も王立図書館の支援を得て出版された⁵⁹。

大北電信会社の技師 Arthur Bollerup Sørensen (1880-1932)⁶⁰は、休暇を利用して中国奥地を度々探検していたが、コペンハーゲンへの帰途、1915 年秋に敦煌莫高窟を訪れ、漢語仏典 16 点、道教典籍 1 点を購入した。売主は莫高窟の管理人、王円籙道士であろうか。王立図書館は、同年 11 月 29 日 Sørensen からこれらの資料を受贈し、その目録は時を経て 1988 年に出版された。

1-010.

Jens O. Petersen: The Dunhuang manuscripts in the Royal Library of Copenhagen. In: *Analecta Hafniensia*; 25 years of East Asian studies in Copenhagen. Ed. by Leif Littrup. London: Curzon Press, 1988. p. 112-117. (Scandinavian Institute of Asian Studies, occasional papers, 3)

(BSBS G5.2.10.1.001, Lib. 220.04/AN)

中国語訳：

哥本哈根皇家図書館藏敦煌写本. 榮新江訳. In: *敦煌学輯刊 (Journal of the Dunhuang Studies)*, 1987, 1, p. 132-137.

写本の画像と目録が International Dunhuang Project (略称 IDP) の Website にて閲覧できる⁶¹。

⁵⁹ Trier 1972.

⁶⁰ A. B. Sørensen の伝記については、*Dansk biografisk leksikon* を参照。
https://biografiskleksikon.lex.dk/A._Bollerup_S%C3%B8rensen

⁶¹ http://idp.bl.uk/database/oo_scroll_h.a4d?uid=7027228413;bst=1;recnum=116143;index=1;img=1

王立図書館所蔵の漢語資料の目録は、"COMDC"の第 9 冊として 2014 年に出版され、版本の漢語仏典 20 数点が収録されているが、敦煌写本については、上記 IDP の Website への参照を指示し収録されていない⁶²。

2. ヘルシンキ大学図書館 (Helsinki University Library)

ヘルシンキ大学図書館 (以下、大学図書館と略す。) は、フィンランドの首都ヘルシンキの中央に所在する。大学の前身は、スウェーデン統治下の 1640 年に旧首都トゥルクに設立されたトゥルク王立アカデミー (The Royal Academy of Turku) である。1828 年に発生した大火により、このアカデミーはヘルシンキに移転し、1917 年フィンランドの独立にともない、ヘルシンキ大学となった。2006 年、大学法の改正により、大学図書館の名称は、フィンランド国立図書館と改称されているが⁶³、本稿では便宜的に旧称で統一する。

後述する G. J. Ramstedt の弟子であり、Helmer Smith (1882-1956) 門下の Pentti Aalto (1917-1998) に次の著書がある⁶⁴。

2-001.

Pentti Aalto: *Oriental studies in Finland 1828-1918*. Helsinki: Societas Scientiarum Fennica, 1971. 174 p. (The history of learning and science in Finland, 1828-1918, 10b)

Review: Françoise Aubin in TP, LXI (1975), 198-203, P. Poucha in OLZ, 71 (1976), 516-518.

(BSBSL1.2.7.001, Lib. 220.04/AA)

本書は、タイトルが示す通り、1828 年を起点としてフィンランドが独立した翌 1918 年までの東洋学史を詳述した著作である⁶⁵。学者の業績が

2024 年 1 月 10 日現在、British Library の IDP Website は、BL に対するサイバー攻撃が原因で利用できない。詳細は、BL Website の "Cyber incident update" を参照。
<https://www.bl.uk/cyber-incident/>

⁶² Pedersen 2014, p. 581-687. 敦煌資料については、同書 p. x を参照。

⁶³ 国立図書館の Website を参照。 <https://www.kansalliskirjasto.fi/en/history>

⁶⁴ 本稿にてフィンランド関係者の記述は、原則本書に基づく。

⁶⁵ 1640-1828 年のトゥルク王立アカデミー時代の学史については、"Åbo Universitets Lärdomshistoria (The history of learning in the University of Turku)", 10 vols. に記録されている。資料番号 2-001 の 'Editorial Note' を参照。

記述の中心であるが、資料収集についても言及されているので参考資料となる。

大学図書館は、サンスクリット語、コータン語、ウイグル語、モンゴル語、漢語の仏典資料を所蔵する。これらの資料は、日露戦争から帰還したスウェーデン系フィンランド人でロシアの軍人 Carl Gustaf Emil Mannerheim (1867-1951)⁶⁶が 1906 年 7 月 28 日より 1908 年 7 月 20 日まで行った中央アジア探検にて収集した資料であり、フィン・ウゴル協会 (Finno-Ugrian Society) より寄託されたものである⁶⁷。この探検の目的は、ロシア軍の命令による中国北西部における諜報活動であった。19 世紀後半から 20 世紀初頭までイギリスとロシアの両大国間で中央アジアの覇権を巡る抗争、グレートゲームが展開されていた時期であった。Mannerheim は、中央アジアへの探検についてヘルシンキ大学のサンスクリット語と比較言語学教授 Otto Donner (1835-1909)⁶⁸に助言を求めた際に Donner より次の提案を受けた⁶⁹。

- (1) 中国北方地域のあまり知られていない民族を調査すること。
- (2) 碑文と岩に描かれた図案を探して複写すること。
- (3) トルクスタンの荒廃した都市の探検を行い、写本と考古学的、民族的遺物を収集すること。

Donner は、Mannerheim がこの提案を遂行するために必要な資金を国立

⁶⁶ Mannerheim は、後にフィンランド軍の最高司令官、フィンランドの大統領も務めた。Wikipedia「カール・グスタフ・エミール・マンネルヘイム」を参照。Mannerheim と後述する Sven Hedin との交友関係については Kaneko (金子) 1982, p. 289-304, 2002 (増補改訂版), p. 379-402 を参照。

⁶⁷ 資料利用については、本協会へ申請して許可を得る必要がある。

⁶⁸ Donner は、サンスクリット文献学の研鑽のため、1864-1865 年にはベルリンで Albrecht Weber (1825-1901) に師事し、1867 年-1868 年にはチュービンゲンで Rudolf von Roth (1821-1895) の薫陶を受けている。1883 年に設立されたフィン・ウゴル協会の創始者で、フィンランド議会の議員 (1905-1908 年在職) でもあった。Donner は実務家としての才にも長け、集団を組織する能力も高かったことから、国立博物館の創設にも重要な役割を果たし、中央アジアとシベリアへの多くの学術探検も組織した。資料番号 2-001, p. 72-76。

⁶⁹ 同上, p. 114。

博物館の収集品の資金を管理する Antell Delegation より獲得した。Mannerheim は、当初ロシア軍の差配で、軍事目的であることを隠すため中央アジアからトルキスタンを経由し北京まで横断する、フランスの Paul Pelliot (1878-1945) が率いる探検隊に 1906 年 7 月に加わった⁷⁰。Mannerheim 探検隊は、1906 年 8 月 11 日にキルギスの都市オシュを出発し、8 月 30 日カシュガルに到着した。しかし、Mannerheim と Pelliot は折り合いが悪く、カシュガルにて Pelliot 隊と別れ、以降 Mannerheim は単独での探検となった。

Mannerheim の報告書は探検終了後 30 年以上を経て出版された。

2-002-1.

C. G. Mannerheim: *Across Asia from West to East in 1906-1908*. Helsinki: Suomalais-Ugrilainen Seura, 1940. 2 vols. (Travaux ethnographiques/Société finno-ougrienne, 8) (BSBS B1.2.3.5 等, Lib. 222.82/MA)

Reprinted in Oosterhout 1969.

An analytical index to C. G. Mannerheim's *Across Asia from 1906-1908: places, persons and general terms*. Comp. by Harry Halén. Helsinki: Finno-Ugrian Society, 2004. 160 p. [1] leaf of plate (folded)

Vol.1 の改訂新版 :

2-002-2.

C. G. Mannerheim: *Across Asia from West to East in 1906-1908, vol.1*. New revised edition. Tr. by Edward Birse. Rev. by Harry Halén. Helsinki: Otava Publishing, 2008. 821 p. ISBN 978-951-1-21284-3.

第 1 冊は旅行日記で⁷¹、写本断片の研究報告は第 2 冊に収録されている。旅行日記については、2004 年に "Analytical index"、2008 年に資料番号 2-002-2 の改訂新版が出版された。『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブでは、第 1 冊の再版本 (1969 年刊) が公開され⁷²、"Internet Archive"

⁷⁰ Mannerheim は、7 月 18 日にウズベキスタンのブハラにて Pelliot 隊と出会い、翌 19 日より同行した。Pelliot 2008, p. 17, 資料番号 2-002-2, p. 15.

⁷¹ 本書の標題紙には記載されていないが、序文によると、スウェーデン語の原本を Edward Birse が英訳した著作である。

⁷² <http://doi.org/10.20676/00000221>

では、第2冊の再版本が公開されている⁷³。

約2年に及ぶ探検旅行中、1908年6月26日に Mannerheim が山西省五台山にて亡命中のダライラマ 13世 (1876-1933) に謁見したことに興味を示した石濱裕美子は、旅行中に撮影された写真を閲覧するため2015年8月末にヘルシンキの国立博物館を訪れた。その調査報告において、石濱は旅程の日付順に、滞在地と旅行日記の本文頁数を対照した一覧表を作成している。旅行日記には、ページの欄外に日付と滞在地が表示されているが、この一覧表により旅程を通覧でき、特定の滞在地の日記本文を閲覧できるので至便である⁷⁴。

ここで、旅行日記の改訂新版について略述する。Pelliot の中央アジア旅行日記⁷⁵には、同行中の Mannerheim の言動や動向が度々言及されているのに対して、Mannerheim の1940年版の旅行日記には Pelliot 探検隊に関する記述が全くないことに筆者は違和感を覚えていたが、改訂新版の出版によりそれは払拭された。改訂者 Harry Halén の序文によると、初版の1940年版は、Mannerheim 自身が個人的に監修したもので、日記の多くの記述は省略・削除され、新たな文章の挿入もあり、文章の順序や内容が入れ替わっている場合もあることを指摘し、Pelliot 探検隊に関する記述をはじめとする省略・削除されていた文章を復元したことが述べられている⁷⁶。改訂新版はその他、誤字や誤表記を正し、中国語の翻字法を変更する等修正が施されているが、旅行日記のほぼ原形を留める出版となったようである。Mannerheim が撮影した写真もデジタル処理し鮮明であり、1940年版より多数収録されていることを付言する。

写本断片の研究報告では、J. N. Reuter (1863-1937)⁷⁷がサンスクリット語

⁷³ <https://archive.org/details/dli.pahar.2755>

⁷⁴ Ishihama (石濱)2016, p. 147-152.

⁷⁵ Pelliot *op. cit.*

⁷⁶ 資料番号 2-002-2, p. 8.

⁷⁷ Reuter は、1891年より Donner の下でサンスクリット語と比較言語学の講師を務め、Donner がフィンランド議会の議員に就任し、大学を離れたことにより1906年-1931年まで教授の任にあった。フィンランドの独立運動では、特使としても活動した。資料番号 2-001, p. 76-79.

とコータン語の写本、Gustaf John Ramstedt (1873-1950)⁷⁸がウイグル語とモンゴル語の写本について執筆している。両氏の研究報告は、フィン・ウゴル協会の機関誌"Journal de la Société finno-ougrienne"に1910年代に発表された論文の再録で⁷⁹、モンゴル語写本については、ドイツ語で執筆された論文⁸⁰の翻訳者による英訳であり、Ramstedt 執筆のウイグル語経済文書4点の論文のみ初出である。

Aalto と Ramstedt の弟子で、フィン・ウゴル語学者 Aulis J. Joki (1913-1989) の薫陶を受け、Mannerheim の研究者としても知られる Harry Halén は、フィンランド国内に所蔵される東洋語写本、版本、碑文と大学図書館が所蔵するロシアの少数民族文献に関するハンドブックを1978年に出版した。

2-003.

Harry Halén: Handbook of Oriental collections in Finland; manuscripts, xylographs, inscriptions, and Russian minority literature. London: Curzon Press, 1978, c1977. 296 p. (Scandinavian Institute of Asian Studies, monograph series, 31)

<https://www.doria.fi/handle/10024/98425>

(BSBS B1.2.3.5.002 等, Lib. R220.31)

本書の第1部にて Mannerheim コレクションはじめ、大学図書館、国立博物館、フィン・ウゴル協会等仏典を所蔵する機関の所蔵状況と、1970年代までの各資料の研究結果が報告されている。Mannerheim コレクションの内、チベット語資料のみ大学図書館ではなく国立博物館に所蔵されている。(p. 11)

さらに Halén は、その後の研究成果に基づく報告を2010年に電子出版した。

⁷⁸ Ramstedt は、1943年よりフィン・ウゴル協会会長、フィンランド・アカデミー会員でもあり、フィンランド初代の駐日代理公使として1919年より1929年までの10年間に亘り日本に駐在した。Ramstedt 1992, p. 256. 同氏は、滞日回顧録を出版している。Ramstedt 1987.

⁷⁹ Reuter 1913-1918.

⁸⁰ Ramstedt 1912.

2-004.

C. G. E. Mannerheimin fragmenttikokoelma [Collection of Mannerheim's fragments]. Helsinki, 2010. 44 p. In: Hary Halén: C. G. E. Mannerheimin Aasian-ratsastuksen aineistoa 1906-08.

<https://www.doria.fi/handle/10024/113487>

(BSBS B1.2.3.5.003 等)

この報告によると、Mannerheim がコートアンにて購入したサンスクリット語写本は、Saddharmapuṇḍarīkasūtra, Suvarṇabhāṣottamasūtra, Śata-sāhasrikā Prajñāpāramitā と Kāśyapaparivarta⁸¹であり、サンスクリット語とコートアン語のバイリンガルのテキストは Pañcapāramitā-nirdeśasūtra⁸²、コートアン語のテキストは Sanghāṭasūtra である。Reuter 同定の Śatasāhasrikā Prajñāpāramitā について、辛嶋静志はギルギット写本 Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā に同定している⁸³。全 11 断片の内、4 点のテキスト名は不明である。その他の資料は、トルファン及びその周辺で購入したもので、モンゴル語のテキストは、モンゴル語訳 Subhāṣitaratnamidhi、ソグド文字のテキストは、漢訳『法華経』、『仏名経』、『合部金光明経』の裏面に書かれ、マニ教文献を含むが、仏典は確認されていない⁸⁴。ウイグル語の写本断片には仏典が含まれているが、テキスト名は同定されていない。トルファン地域にて出土した漢語写本断片約 2,000 点については⁸⁵、西脇常記が 2010 年に編纂した目録に基づき、一部日本語をフィンランド語に翻訳して編集されているが、西脇の説明文は割愛されている。以下の著書に西脇目録が収録されている。

2-005.

⁸¹ A. W. de Jong により同定された。de Jong 1977.

⁸² 辛嶋静志により同定された。Karashima (辛嶋) 2004.

⁸³ Karashima (辛嶋) 2005.

⁸⁴ Sims-Williams & Harén 1980.

⁸⁵ 藤枝晃 (1911-1998)、井ノ口泰淳 (1922-2018)、百済康義 (1946-2004) の 3 名は、1982 年秋に大学図書館を訪問し、漢語写本断片約 2,000 点を写真撮影した。百済は、龍谷大学とヘルシンキ大学との共同で目録を出版する予定であることを公表していた。Kudara 1984, p. 995.

西脇常記：トルファン出土漢語文書研究 (Research on the Chinese manuscripts from Turfan). 京都：同志社大学文学部文化史学科西脇研究室, 2010. 158 p.

第1章 マネルハイム・コレクション (Chinese manuscripts from Central Asia in the C. G. E. Mannerheim collection), p. 7-41. (p. 23-41 図版)

第2章 マネルハイム・コレクション漢語断片目録 (A catalogue of Chinese fragments of the C. G. E. Mannerheim collection), p. 42-83.

(BSBS G6.3.009, Lib. 222.80/NI)

本書には、ベルリン・トルファン・コレクションの漢訳仏典版本断片の研究、N. N. Krotkov (1869-1919) 収集のトルファン出土漢語仏典目録も収録されている⁸⁶。資料の収集地は、先のMannerheimの旅行日記から推測する以外に方法はないが、西脇は大谷探検隊やドイツ学術調査隊将来のトルファン出土漢語資料との比較検討に基づき、「漢語断片のほとんどは寫本であり、マンネルハイムがトルファン地域で手に入れたものとするのは妥当である。」(p. 11)との見解を示す。

Mannerheimは、Pelliotより3ヶ月以上前の1907年11月14日に敦煌を訪れ16日まで滞在したが⁸⁷、莫高窟には行かなかったため敦煌写本は入手していない⁸⁸。

Mannerheim収集断片資料の画像をWebsite "Doria"にて閲覧することができる⁸⁹。同Websiteの記述によると、資料の写真撮影をしたのは、トルファン文書の研究者でもある小口雅史である。

70歳を迎えたMannerheimは1937年、自身の旅行日記とメモ、学術論考の原稿一式をフィン・ウゴル協会に寄贈し、2001年にヘルシンキ大学に

⁸⁶ 第1-2章は、西脇2016に再録されている。

⁸⁷ 資料番号 2-002-1, p. 407-415, 資料番号 2-002-2, p. 457-463. Pelliotは1908年2月25日に莫高窟千仏洞に到着し、翌日より調査を開始し、3カ月間滞在した。Pelliotは流暢に中国語を話すことができたこともあり、王円籙道士は、Aurel Steinには許さなかった石室への立ち入りをPelliotには許可した。Umemura (梅村) 1980, p. 152.

⁸⁸ 莫高窟を訪れなかった事情については、Halén 1999, p. 114-115を参照。

⁸⁹ C.E.G. Mannerheim's Fragment Collection: <https://www.doria.fi/handle/10024/113125>

移管された⁹⁰。

その他、1930年頃フィンランドの宣教師がシッキムにて入手したチベット語仏典 *mDo-mang* 写本が教会を通して寄贈されている⁹¹。

ヘルシンキ大学比較言語学教授で著名なアルタイ語学者の *Gustaf John Ramstedt* は、師である *Otto Donner* を通じ、フィン・ウゴル協会の資金提供を受け、モンゴル語圏の調査旅行を1898年6月より2年半に亘り行った⁹²。*Ramstedt* は、その後も1903年から1912年にモンゴル語圏の調査旅行を4回、東トルキスタンの調査旅行を1905年に行った⁹³。初回のモンゴル語圏の調査旅行で収集した学術資料、写真、ノート、写本はフィンランドへの帰途、不運にもシベリア鉄道で盗難に遭ってしまったが⁹⁴、それ以降に購入したモンゴル語写本・版本99点のコレクション⁹⁵は、同氏の逝去後大学図書館とフィン・ウゴル協会に寄贈され、以下の目録が出版された。

2-006.

Pentti Aalto: *G. J. Ramstedt's mongolische Bibliothek*. In: *JSFou*, 57 (1953-1954), 26 p. (BSBS E2.2.6.1.001)

3. スウェーデン国立図書館 (National Library of Sweden)

首都ストックホルムに所在する、1661年創設のスウェーデン国立図書館⁹⁶は、漢語とパーリ語の仏典資料を所蔵する。

鉱物学者で探検家の *Adolf Erik Nordenskiöld* (1832-1901)⁹⁷ は、1878年7月

⁹⁰ 資料番号 2-004. *Harry Halén: C. G. E. Mannerheimin Aasian-ratsastuksen aineistoa 1906-08*. PDF no. 1: *Muistiinpanoja retkeltä sekä muuta siihen liittyvää aineistoa*, p. 7.

⁹¹ *Aalto 1952*.

⁹² 資料番号 2-001, p. 103-104, *Ramstedt 1992*, 第1章 モンゴル旅行 (1898年), p. 23-110.

⁹³ *Ramstedt 1992*.

⁹⁴ *Ibid.*, p. 108-110.

⁹⁵ 購入地については、資料番号 2-001, p. 103-108 を参照。

⁹⁶ スウェーデン語の *Kungliga biblioteket* を直訳すると、王立図書館である。

⁹⁷ *Nordenskiöld* は、1832年にフィンランドのヘルシンキにて生まれたスウェーデン系フィンランド人であるが、1857年スウェーデンに移り、1860年にスウェーデン国籍を取得した。Kaneko (金子) 1982, p. 13-14, 2002 (増補改訂版), p. 16.

4日に蒸気船ヴェガ号でストックホルム港を出発し、北極海航路の航海を史上初めて成功させ、ベーリング海を通過し、1879(明治12)年9月2日に横浜港に到着した。Nordenskiöldは航海の成功を祝して歓待を受け⁹⁸、約2カ月間日本国内を見聞しながら、自身の専門の鉱物や化石の収集、銅器や武器等工芸品の購入、そして横浜にてオランダの医師であり薬剤師のA. J. C. Geertzに紹介された日本の青年の協力を得て、横浜、東京、京都の古書肆にて多数の古典籍を購入した。古い歴史を有する日本の文化を評価していたNordenskiöldの洞察力は鋭く、昨今の日本人は西洋の書物に目が向き、日本人の叡智の結晶である古典籍は蔑ろにされているので、今はそれらが安価で手に入るが、いずれ高価で入手しにくくなる⁹⁹と予見していた⁹⁹。この古典籍コレクションは王立図書館、現在の国立図書館に寄贈され、目録はフランスにおける近代日本研究の創始者Léon de Rosny(1837-1914)¹⁰⁰により編纂され、1883年パリにて出版された。

⁹⁸9月15日に東京地学協会(1879年創立)、日本アジア協会(1872年創立)、ドイツ・アジア協会(1873年創立、現在のOAG・ドイツ東洋文化研究協会)主催の歓迎式典が工部大学校(東京大学工学部の前身)にて開かれ、各国の大使や日本の皇族が出席した。Nordenskiöldは後日、東京地学協会より銀メダルを授与された。同月17日には明治天皇にも謁見している。Nordenskiöld 1881, p. 304-308.

⁹⁹資料番号3-002, p. vii-viii.

¹⁰⁰Stanislas Julien(1797-1873)とAntoine Bazin(1799-1862)師事したde Rosnyは、Julienに奨められ独学で日本語を修得した。1868年には東洋語学校(École spéciale des langues orientales)の日本語講座の初代教授に任命されている。de Rosnyの略伝については、Matsubara(松原)1986, Vande Walle 2021を参照。de Rosnyの蔵書はフランス北部のリール市民図書館(Bibliothèque municipale de Lille)にて発見されたが、Julienよりde Rosnyに遺贈された図書も同時に発見された。Matsubara(松原)1986, p. 12. Julienとその師Jean Pierre Abel-Rémusat両氏の書き込み本もあり、貴重なコレクションとなっている。近年de Rosny旧蔵漢籍に関する論集が二松学舎大学日本漢学研究センターより出版され、その漢籍目録2種も編纂されている。Machi(町)2021, p. 161-408. 1種はリール市民図書館の登録番号順の目録で、もう1種は清水信子が編纂した分類目録である。仏典は「釈家類」に一括収録されているので至便である。(p. 360-349) 清水の報告によると、漢籍の総数約510点中、嘉興蔵所収仏典16点とその他覆刻本1点があり、寺院版20点中、

3-001.

Leon de Rosny: Catalogue de la bibliothèque japonaise de Nordenskiöld. Précédé d'une introduction par le Marquis d'Hervey de Saint-Denys. Paris: Imprimerie nationale, 1883. xxiv, 359 p.

<https://archive.org/details/cataloguedelabi00rosngoog>

資料番号 3-002 の序文によると、de Rosny は目録編纂のためにストックホルムに出向くことなく、王立図書館より送られた多くの見本と、恐らくパリと手許にある同じ資料によって目録編纂したことにより、推測による記述もあったようだ¹⁰¹。このような事情により、新たな目録が 1980 年に上梓された。

3-002.

広州の海幢寺版が 11 点と多く、その他官版（内府刊本）16 点がある。寺院版のほとんどは、日本には伝存していないことを指摘する。(p. 144) フランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France (BnF)) が所蔵する漢語版本仏典は、嘉興蔵と海幢寺をはじめとする広州開版本である点は類似している。Sueki (末木) 2023, p. 126. Julien は元代の経録『至元法宝勘同総録』(昭和法宝総目録 No. 25) を研究し、漢字音からサンスクリット語の復元をしているが、それに引用された多くの仏典が清水編纂の目録に収録されている。Julien の書き込み本もある。また、その復元の方法論を提示した Julien 1861 に引用された仏典も同様に見出される。当時、BnF 写本部の副キュレーター (Conservateur adjoint) でもあった Julien は、この『至元録』の論攷にて、『至元録』のテキストと共に、ロシア政府の要請により購入した仏典等の膨大なコレクション (la vaste collection de livres bouddhiques, etc.) が 1848 年にはパリに到着予定であり、サンクトペテルブルクには既に同年 6 月に北京より到着していること、『至元録』のテキストとそのコレクションのリストは手許に届いたこと等を記述している。Julien 1849, p. 362. Julien は、BnF の内部資料として "Catalogue des livres chinois, mandchous, mongols et japonais du nouveau fonds chinois de la Bibliothèque impériale"; 4 冊を 1853 年に編纂したが、その第 1 冊 38-87 頁に約 170 点の漢語仏典が収録されている。仏典名を漢字とラテン文字で表記し、テキストの内容、登録番号を記した手書きシートをノートに張り合わせた目録である。由来の説明がなく確証はないが、タイトルに 'nouveau fonds chinois' とあることと編纂年を勘案すると、BnF がロシアの要請により購入した資料と推察される。この目録はオンラインで閲覧できる。
<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b53142084h.image>

¹⁰¹ 資料番号 3-002, p. ix.

J. S. Edgren: Catalogue of the Nordenskiöld collection of Japanese books in the Royal Library. Stockholm: [Kungliga Biblioteket], 1980. xv, 388 p., portr. (Acta Bibliothecae Regiae Stockholmiensis, 33)

本書は分類目録で、全 1,082 点を収録し、仏典は分類項目「仏教」(Nos. 82-128)に収録され、書名、著者名、出版年、購入価格、大きさ、de Rosny 目録番号、コメント等が記載されている。主に江戸時代の版本である¹⁰²。巻末に書名と人名索引を付す。

目録編纂者 Edgren より本書を受贈した古書肆「弘文荘」¹⁰³の創業者で古書鑑定家の反町茂雄(1901-1991)は、この目録に購入価格が記載されていることに注目し、明治 12 年の古典籍の価格調査のため 1981 年に国立図書館を訪れ、購入価格が Nordenskiöld の記録に基づいたものであることを確認した¹⁰⁴。反町は、古版本の仏典として『般若波羅蜜多理趣釈』永仁 4 (1296) 年行円刊 1 冊 15 銭、『景德伝燈録』貞和 4 (1348) 年刊五山版 13 冊 1 円 50 銭、『五燈会元』応安元 (1368) 年刊浅野梅堂旧蔵五山建仁寺版 20 冊 1 円 60 銭、『沙石集』慶長 10 (1605) 年刊古活字版要法寺版 10 冊 1 円 50 銭、『大蔵一覽集』慶長 20 (1615) 年刊古活字版駿河版 11 冊 1 円 50 銭の 5 点を挙げ、当時の古版本の販売価格の安さを示す¹⁰⁵。さらに、同氏は明治 12 年以降の古典籍の価格上昇の推移を調査し、明治末の 1912 年には約 30 倍に高騰していることも指摘している¹⁰⁶。

ヴェガ号は、1879 年 10 月 21 日に長崎港を出発し、香港、シンガポー

¹⁰² Sorimachi (反町) 1984, p. 20.

¹⁰³ 反町茂雄の古書販売目録『弘文荘待買目録』は有名である。この目録を中心に、弘文荘の出品が確認された 77 冊の目録の全頁デジタル版は、八木書店により 2016 年に編集出版された。

¹⁰⁴ Sorimachi (反町) 前掲書, p. 17.

¹⁰⁵ 仏典以外の古版本、中世日本の有職故実書『職原抄』について、反町は「最も驚くべきは慶長勅版の職原鈔は僅僅三十銭。...(中略)...今日、私なら千五百万円で目録にのせましょう。」と記す。反町の調査によると、明治 12 年当時、大工の手間賃は一日 50 銭、牛乳 1 本 4 銭、ビール 1 本 16 銭であり、明治 14 年の警察官の初任給は 6 円である。同上, p. 18-19.

¹⁰⁶ 同上, p. 18-35.

ル等を経由し、12月15日にセイロンに到着した。Nordenskiöldは、サンクリット語、パーリ語、シンハラ語の写本収集を目論み、多くの仏教寺院を訪ねたが、セイロンでの写本収集は1週間程の短期間の滞在のため、なかなか困難であったことを回顧している¹⁰⁷。結局10点の貝葉写本を含む11点のパーリ語とシンハラ語の写本を収集した¹⁰⁸。その目録は、和書目録と同じく1883年に出版された。

3-003.

V. Fausböll: Pāli MSS. at Stockholm. In: JPTS, 1883, 150-151.

"Dr. E. W. Dahlgren, ..., has been kind enough to send me, in English, the following list of the Pāli and Sinhalese MSS. now at Stockholm, and collected in Ceylon by Baron Nordenskiöld. It is compiled from a description of them contributed to the Journal of the Society by Professor Fausböll." p. 150.

<https://palitextsociety.org/journals-of-the-pali-text-society-free-downloads/>

<http://archive.org/details/1883journalpa100paliuoft/page/150/mode/1up?view=theater>

(BSBS C12.17.1.001)

Nordenskiöldは、12月22日にセイロンを出港し、スエズ運河経由で1880年4月24日ストックホルム港に到着した。この航海の成功により、同氏はスウェーデンのみならず世界的に名声を博した¹⁰⁹。ヴェガ号がストックホルム港に帰着する日は花火が上がるなど町中がお祭り騒ぎとなったようで¹¹⁰、その渦中にいた当時15歳のSven Hedinにとっては極地探検家を夢見る瞬間となった¹¹¹。1884年より二人の親交は始まり、Hedinは終生Nordenskiöldを師と仰ぎ、同氏から様々な薫陶と激励を受けた¹¹²。

¹⁰⁷ Nordenskiöld *op. cit.*, p. 423-424.

¹⁰⁸ *Ibid.*, p. 423-427.

¹⁰⁹ Kaneko (金子) 1982, p. 14-15, 2002 (増補改訂版), p. 17.

¹¹⁰ ヴェガ号がストックホルム港に入港した時の写真（挿絵）を参照。Nordenskiöld *op. cit.*, p. 461.

¹¹¹ Wahlquist 2012.

¹¹² NordenskiöldとHedinとの親交については、Kaneko (金子) 1982, p. 9-23, 2002 (増補改訂版), p. 11-26, Tanaka (田中) 2018, p. 158を参照。Hedinは、探検家としてのNordenskiöldの足跡をまとめた著作もスウェーデン語で上梓している。Hedin 1926.

4. 民族学博物館 (Museum of Ethnography)

ストックホルムに所在する民族学博物館は、チベット語、モンゴル語、ウイグル語、西夏語の仏典資料を所蔵する。

Sven Hedin (1865-1952)¹¹³ は、中央アジア探検の準備のため1889年10月から半年間と1892年にベルリン大学に留学し、地理学教授で「シルクロード」(Seidenstrassen, Silk roads 複数形)の命名者として知られるFerdinand von Richthofen (1833-1905)¹¹⁴ に師事したことが契機となり、中央アジア探検に関して同氏から数々の示唆を得ていたことがRichthofenの書簡より知られる¹¹⁵。Hedinは1893年より1908年まで3回中央アジア探検を行い¹¹⁶、最後となる第4次の探検で、中国側と共同して西北科学考查団 (The Sino-Swedish Expedition、以下、考查団と略す。)を編成し、1927年より1935年まで北京を起点として、内モンゴルと新疆を中心に調査した¹¹⁷。この探検は、地

¹¹³ Hedinには多くの著作があり、その目録も編纂されている。Hesse 1962-1980, Kaneko (金子) 1981. 前者には、単行書のみならず論文、コラム等も収録されている。

¹¹⁴ Richthofen は、1860年9月-1861年2月まで、1870年9月-1871年3月まで2度来日し、その滞在日記の和訳が出版されている。Richthofen 2013.

¹¹⁵ Kaneko (金子) 1982, p. 61-78, 2002 (増補改訂版), p. 38-57 を参照。一般読者向けの著作のためか、金子はその典拠の詳細を示していないが、Richthofen の生誕100周年に出版された単行書で、1889年11月-1905年2月までHedinがRichthofenより受け取った書簡が収録されている。Tiessen 1933.

¹¹⁶ Hedin は第3次探検を終え、インド滞在中に在日スウェーデン公使の勧めや西本願寺法主大谷光瑞 (1876-1948) からの招聘電報に応じて、東京地学協会の招待を受諾し、1908 (明治41) 年11月に来日した。Hedin は日本にて歓待を受け、歓迎式典と講演会が開催され、メダルや勲一等瑞宝章を授与され、明治天皇にも謁見した。京都では京都大学の学賓として諸行事が開催され、多くの研究者と交流している。Hedin 1966, p. 521-522, Tanaka (田中) 前掲論文。Hedin の来日も含め、中央アジアにそれぞれ探検を展開した Hedin と大谷光瑞との交流に関する論集も出版されている。Shirasu (白須) 2014.

¹¹⁷ 新疆ウイグル自治区档案馆が所蔵する考查団に関する文書と史料 318 点が公開され、中国学術団体協会と Hedin との間で締結された合同調査協定書の内容が明らかにされた。Xinjiang weiwuer zizhiqu dang'anquan 2006, p. 3-5, plate 8 「中瑞共同組織西北科学考察团合作為法」(1927年4月26日) を参照。本書を中国と共同出版した佛教大学ニヤ遺跡学術研究機構代表、小島康誉はこの協定書の

理、考古、生物、民俗、気象等広範囲な分野の調査を目的としていた。考査団の調査報告は、叢書名 "Reports from the scientific expedition to the north-western provinces of China under the leadership of Dr. Sven Hedin" (以下、考査団報告書と略す。) として、各専門家により全55冊が出版され、Hedinは次の探検史3分冊を出版した。探検史の第4分冊は、考査団員4名による旅行日記やフィールドワークの報告書である。

4-001.

Sven Hedin: History of the expedition in Asia 1927-1935, 4 pts. Stockholm: Elanders Boktryckeri Aktiebolag, 1943-1945. In collaboration with Folke Bergman. Stockholm, 1943-1945. (Reports from the scientific expedition to the north-western provinces of China under the leadership of Dr. Sven Hedin: The Sino-Swedish expedition, publication 23-26)

Pts. 1-3: <https://doi.org/10.20676/00000210>

Pt. 4: History of the expedition in Asia 1927-1935: General reports of travels and field work by Folke Bergman, Gerhard Bexell, Birger Bohlín [&] Gösta Montell.

Folke Bergman: Travels and archaeological field-work in Mongolia and Sin-kiang; a diary of the years 1927-1934, p. 1-192.

<https://www.jaringlibrary.lingfil.uu.se/travel/travels-and-archaeological-field-work-in-mongolia-and-sinkiang/>

Gerhard Bexell: Geological and palaeontological investigations in Mongolia and Kansu 1929-1934, p. 193-254.

Birger Bohlín: Palaeontological and geological researches in Mongolia and Kansu 1929-1933, p. 255-325.

Gösta Montell: As ethnographer in China and Mongolia 1929-1932, p. 327-449.

(BSBS D2.2.21.1等, Lib. 292.209/SI)

この調査では、漢語とコータン語の写本断片、チベット語、モンゴル語、ウイグル語、西夏語の写本・版本断片が収集され、"Hedin Collection" と命名されているが、Hedin自身により収集された資料はなく、以下に記

内容について解説している。Kojima (小島) 2014, p. 48-49. 中国側の隊員で新進の考古学者の黄文弼 (1893-1966) も写本を収集しているが、本稿では言及しない。考査団と黄文弼との関係については、Kaneko (金子) 1982, p. 267-288, 2002 (増補改訂版), p. 342-378 を参照。

述するFolke Bergman, Nils Ambolt, Georg Söderbom, Gösta Montell, Ferdinand Lessing等の調査団員が収集した資料である。これらの資料は、スウェーデン王立科学アカデミーに設置されている、スヴェン・ヘディン財団(The Sven Hedin Foundation at the Royal Swedish Academy of Sciences)より民族学博物館に寄託された。調査団に参加した、スウェーデンの考古学者Folke Bergman (1902-1946)¹¹⁸と民俗学者で後に民族学博物館アジア部門長となったGösta Montell (1899-1975)¹¹⁹による資料収集については、上記資料番号4-001第4分冊の各著作に見出される場合もある。Bergmanはエドセン＝ゴル(Edsen-gol)地域のイクン＝ゴル(Ikhen-gol)にて、大量のチベット語、サンスクリット語とモンゴル語の写本・版本を発見した。それらは、いずれも破損しているか、断片であったと記述されているが¹²⁰、調査団収集の写本にサンスクリット語資料に関する報告を寡聞にして知らない。天文学者のNils Ambolt (1900-1969)¹²¹がコータンにて1931年頃購入したコータン語の資料も所蔵されている¹²²。その他には、フフホトや北京にて収集された資料もある。

スヴェン・ヘディン財団のWebsiteではHedinの伝記をはじめ、Hedinに関する情報が種々公開されつつあり、収集品のコレクションについても簡略に紹介されている¹²³。

"Hedin Collection"と、その他民族学博物館が所蔵するチベット語資料は、ボン大学教授 Helmut Eimerにより一覧表が1972年より1978年にかけて7分冊で出版され¹²⁴、1978年に1冊に合本出版された。

¹¹⁸ Bergman は、調査団報告書 Nos. 7, 15, 39, 41, 50 を出版している。

¹¹⁹ Montell は、調査団報告書 Nos. 4, 8, 15, 18, 32, 34, 46 等に寄稿している。"Sven Hedin, life and letters" の第2巻でHedinの生誕100年を記念して出版された "Sven Hedin as artist" (Stockholm, 1964) の改訂者としても名を連ねている。

¹²⁰ 資料番号 4-001, pt. 4, p. 118.

¹²¹ Ambolt は、調査団報告書 Nos. 6 & 30, 48, 54 を出版している。

¹²² Bailey 1961, Sims-Williams 2018, p. 285-286.

¹²³ <https://svenhedinfoundation.org/collections/>

¹²⁴ Eimer は、師であるボン大学教授 Frank-Richard Hamm (1920-1973) の指示により、スウェーデンに赴き、年1回1ヶ月の滞在を3回実施し、作成したリスト

4-002.

Helmut Eimer: *Tibetica Stockholmiensia; Handliste der tibetischen Texte der Sven-Hedin-Stiftung und des Ethnographischen Museum zu Stockholm*, 7 Teile. In: *Zentralasiatische Studien*, 6 (1972), 603-681, 7 (1973), 301-352, 8 (1974), 179-240, 9 (1975), 37-86, 10 (1976), 625-674, 11 (1977), 507-554, 12 (1978), 317-358.

Reprinted in 1 vol. in 1978.

(BSBS D 2.2.21.1.001, Lib. R929.3200/EI)

この一覧表で各資料の詳細は、先行出版されているチベット語写本・版本目録の該当番号を引用し、書誌記述を簡素化している。特に数量の多い Manfred Taube (1928-2021) 編纂のドイツ国内所蔵チベット語写本・版本目録番号¹²⁵とのコンコーダンスを巻末に付す。資料の内容は、学僧の全集、祭儀書、チベット語・モンゴル語辞書をはじめとする多くの北京版本と800点の写本、750点以上の写本断片などであり、序論にてコレクションの概要が詳述されている。Folke Bergmanの他、考査団の自動車整備技師 Georg Söderbom (1904-1973)¹²⁶ がエドセン＝ゴルにて収集した資料、Gösta Montell (1899-1975) がフフホト (Hohhot, Kweihwa) にて収集した資料も含まれ、Toni Schmid (1897-1972) 女史¹²⁷が購入したラサ版 Kanjur¹²⁸も収録さ

である。An interview with Helmut Eimer. In: *Oral History of Tibetan Studies*. Date: August 17, 2019 in Bonn を参照。 <https://oralhistory.iats.info/interviews/helmut-eimer/>

¹²⁵ Taube 1966.

¹²⁶ Söderbom は、第 2 次デンマーク中央アジア探検隊員であり、本稿にて言及した他の隊員 Henning Haslund-Christensen, Werner Jacobsen 等と 1938 年に一同に会している所を Kaare Grønbech が撮影した写真を国立博物館は公開している。 <https://samlinger.natmus.dk/es/asset/354655>

¹²⁷ Schmid 女史は、考査団報告書にチベット仏教に関する著作 4 冊を出版している。Nos. 36, 42, 45-46. 同女氏の業績については、Hammar 2022 を参照。

¹²⁸ Schmid 女史が、チベット語の研究のためネパールのカトマンドゥ滞在中に民族博物館のために購入手続きをし、前述のカリンボン在住の G. Roerich を経てスウェーデンに送られた Kanjur である。同女史は、Roerich の世話により Tanjur も中国のラマ僧を介して購入手続きをしたが、チベットより送られて来ることはなかった。Hammar *op. cit.*, p. 6-7. 北欧諸国のチベット語資料の収集に Roerich が寄与していたことは記憶に留めたい。

れている。

同じく考査団員で、中国学と蒙古学の専門家であり、チベット仏教にも造詣の深い Ferdinand Lessing (1882-1964)¹²⁹が北京にて収集した A-kyā 3世、bLo-bzang-jam-dbyangs-rgya-mtsho (1768-1816) 著作集の北京版 dkar-chag (内容索引) は、同じく H. Eimer¹³⁰により国際仏教学研究所 (旧：靈友会図書室) の叢書として出版されている。

4-003.

Helmut Eimer: The Tibetan indexes (dkar chag) to the collected works (bka' 'bum) of A kya gsañ 'dzin rdo rje. Tokyo: Reiyukai Library, 1980. iv, 42 p. (Bibliographia Philologica Buddhica, series minor 4) ISBN 4-906267-10-6.

<http://id.nii.ac.jp/1153/00000342/>

Review: A. Mette in ZDMG, 132 (1982), 231, M. Taube in OLZ, 79 (1984), 509-511.

(BSBS D3.1.1.1.001, Lib. R180.321/EI)

H. Eimer は、Loden Sherab Dag-yab と共同して、考査団が 1932 年に Gurtum Lama より入手した 19 世紀ごろ活躍した学僧、A-lag-sha-lha-btsun bLo-bzang-bstan-pa'i-mgon-po の著作集についても、アルファベット順のタイトルリスト、各タイトルの著作集における所在リスト、欄外タイトルリストを作成している。

4-004.

Loden Sherab Dag-yab and Helmut Eimer: The collected works of A-la-śa lHa-btsun. In: Vicitrakusumāñjali; volume presented to Richard Othon Meisezahl on the occasion of his eightieth birthday. Ed. by Helmut Eimer. Bonn: Indica et Tibetica Verl., 1986. p. 33-48. (Indica et Tibetica, 11)

(BSBS D3.1.1.2.001, Lib. 180.4/ME)

モンゴル語写本・版本については、次の目録が出版された¹³⁰。

¹²⁹ Lessing は、考査団報告書に北京に所在する、ゲルク派の寺院、雍和宮のチベット図像に関する著作を出版している。No. 18 (1942). Montell も共同執筆している。Lessing については、Walravens 2000 を参照。Hedin との書簡も収録されている。

¹³⁰ Aalto は、目録出版に先行してコレクションの概要を報告している。Aalto

4-005.

Pentti Aalto: A catalogue of the Hedin collection of Mongolian literature. In: Contributions to ethnography, linguistics and history of religion. Stockholm: Statens Etnografiska Museum, 1954. p. 67-108. (Reports from the scientific expedition to the north-western provinces of China under the leadership of Dr. Sven Hedin: The Sino-Swedish expedition, publication 38)

(BSBS E2.2.16.1.001, Lib. 292.209/SI)

中国語訳：

斯德哥爾摩瑞典民族学博物館所蔵蒙古文書籍記述。趙靚 敖特根訳。In: 敦煌学輯刊 (Journal of the Dunhuang Studies), 2014, 2, p. 156-167.

資料の内容は、131 点の写本・版本であり、主に経典、注釈書等の仏典で、内モンゴルと北京にて主に Gösta Montell が収集した資料であり、5 点は、Thorild Wulff (1877-1917) が 1913 年から 1914 年のモンゴル探検にて入手した資料である。本目録収録写本 12 点について、目録刊行後 50 年の研究の進捗により、タイトルの同定をはじめとする目録の記載内容を補う論放が、ハンガリーのモンゴル学者 György Kara (1935-2022) の夫人 Marta Kiripolská により出版された。

4-006.

Marta Kiripolská: A few remarks on some Mongolian texts in Stockholm. In: The black master: essays on Central Eurasia in honor of György Kara on his 70th birthday. Ed. by Stéphane Grivelet [et al.]. Wiesbaden: Harrassowitz, 2005. p. 65-73.

<https://www.ub.uio.no/english/subjects/language-literature/chinese/resources/more-mongol-manuscripts-in-the-university-library-of-oslo1.pdf>

(BSBS E2.2.16.1.003, Lib. 829.570/KA)

ウイグル語写本については、1979 年に百濟康義 (1945-2004)¹³¹ が民族学博物館にて 41 葉の写本の暫定目録を編纂し、Hedin に捧げたが未刊であ

1950.

¹³¹ 百濟は、国際協力による論著も遺している。追悼論集は、『仏教学研究』62/63 (2007) の他、ドイツでも出版され、それぞれ著作目録が収録されている。Zieme (ed.) 2008.

る。資料番号 4-007 の編纂者である Yukiyo Kasai (笠井幸代), Simone-Christiane Raschmann, Peter Zieme の共同執筆による序論によると、仏典は漢訳からの重訳であり、百済は目録に各資料の大正蔵との対応箇所を指示している。本コレクションにおける百済の業績も序論に記述されている。日本を代表するウイグル語仏典の研究者、庄垣内正弘 (1942-2014) の遺作となった『ウイグル語訳阿毘達磨俱舍論』は Peter Zieme 等が原稿を整理・編集して出版された¹³²。もう一つの大きな写本断片群は Āgama (阿含) テキストであり¹³³、専門家 8 人による論集が 2017 年に出版された。**4-007.**

The old Uyghur Āgama fragments preserved in the Sven Hedin collection, Stockholm. Ed. by Yukiyo Kasai, Simone-Christiane Raschmann, Håkan Wahlquist, [&] Peter Zieme. Turnhout: Brepols, 2017. 295 p., 32 plates. (Silk Road studies, XV) ISBN 978-2-503-57485-5.

(BSBS F4.2.7.001, Lib. 183.104/KA)

序論では、写本断片の出所、テキストの研究史、翻訳上の特殊性等が言及され、最後に大正蔵第 1-2 卷 (阿含部) 所収仏典に対応するウイグル語訳資料の所在を一覧表にまとめている¹³⁴。この一覧表では、"Hedin Collection" の他、世界各地に散在するウイグル語 Āgama テキストが収録されている。

写本の出土地については諸説があるようで、スヴェン・ヘディン財団のキーパー Håkan Wahlquist の序文にて出土地に関する諸研究や Hedin の書簡等が詳細に報告されているが、前述の Bergman の旅行日記については言及されていない。この旅行日記でウイグル語写本の収集について記述されているのはカラホト (Khara-khoto) であり、Bergman は同地にてウイグル語写本・版本断片と漢語の写本断片、チベット語、モンゴル語、

¹³² Shōgaito 2014, 百済目録 Nos. 25-40, 資料番号 4-007, p. 17.

¹³³ 百済目録 Nos. 1-16, 資料番号 4-007, p. 17.

¹³⁴ これは Aydar Mirkamal 作成の一覧表をアップデートしたものである。Mirkamal 2010.

西夏語の写本・版本断片を発掘したことが記録されている¹³⁵。

西夏語資料については、西夏学の泰斗、西田龍雄(1928-2012)の研究がある¹³⁶。それによると、入手経路は不明とするが、資料の内容は元代版本の『白上大國新譯三藏聖教序』、漢訳から重訳された『佛說月光菩薩經』(T. no. 166)、『佛說了義般若波羅蜜多經』(T. no. 247)、『聖無能勝金剛火陀羅尼經』(T. no. 1236)、『毘俱胝菩薩一百八名經』(T. no. 1114)、『佛說菩薩修行經』(T. no. 330)、『大方等無想經卷第六』(T. no. 387)である。西田は『白上大國新譯三藏聖教序』について、「木活字本に先立って存在した元刊本の實體を、正に實證する極めて重要な資料である。」と指摘する。その他、ずっと後代に作られた西夏文『大方廣佛華嚴經』卷第四十一の石印本について言及している。ロシアのKseniia Borisovna Keping(1937-2002)女史は、『大方廣佛華嚴經』卷第四十一以外のテキストはFolke Bergman将来のカラホト出土資料であることを指摘する¹³⁷。Bergmanは、カラホト近郊でも西夏語の版本を入手している¹³⁸。

5. ウプサラ大学図書館(Uppsala University Library)

スウェーデン中部に所在する北欧最古の大学、1477年創立のウプサラ大学の図書館は、写本3点、版本17点のチベット語資料を所蔵し、資料の一覧表がH. Eimerにより出版された。

5-001.

Helmut Eimer: *Tibetica Upsaliensia; Handliste der tibetischen Handschriften und Blockdrucke in der Universitätsbibliothek zu Uppsala*. Stockholm: Almqvist & Wiksell International, 1975. 88 p.

Review: Josef Kolmaš in *ArchOr*, 48(1980), 156-157.

(BSBS D2.2.21.2.001, Lib. R929.320/EI)

このコレクションには、Helmer Smithより寄託された写本1点、Toni

¹³⁵ 資料番号4-001, pt. 4, p. 149.

¹³⁶ Nishida 1976, あとがき p. 3-12.

¹³⁷ Keping 2003.

¹³⁸ 資料番号4-001, pt. 4, p. 143.

Schmid 女史が 1962 年にシッキムとネパールでの探検で収集した版本 3 点も含まれている。

ヨーロッパと北米に所蔵される東洋語写本の所蔵状況を調査した James Douglas Pearson (1911-1997) は、動物学者の Konrad Fristedt (1860-1940) が 1889 年にセイロンにて購入した多くのパーリ語写本が所蔵されていることを報告しているが、目録は未刊である¹³⁹。

6. オスロー大学図書館 (University of Oslo Library, Oslo)

ノルウェーの首都に所在し、1811年に設立されたオスロー大学図書館は、前述の Theo Sørensen が 1923 年に民族学博物館に寄贈し、その後 1950 年代中頃に移管された Narthang 版 Kanjur と Derge 版 Tanjur をはじめとするチベット語¹⁴⁰とモンゴル語の仏典資料を所蔵する。

チベット語資料は、Sørensen が 1899 年よりノルウェーに帰国するまで居住したチベット東部との国境に近い四川省のカンゼ (dkar mdzes)・チベット族自治州 (甘孜藏族自治州) 東部の康定市を拠点として収集された¹⁴¹。Tanjur については、元々は医師で、その後医学史の専門家となり、当時民族学博物館の保存管理者であった Adolf Mauritz Fonahn (1873-1940)¹⁴² 編纂の目録が 1936 年に出版された。

6-001.

A. Fonahn: Notes on the Tanjur in Oslo. In: Oslo Etnografiske Museums Skrifter, 3, 4 (1936), [161]-208.

<https://www.ub.uio.no/english/subjects/language-literature/tibetan/>

(BSBS D1.2.2.3.001, Lib. R180.321/FO)

Fonahn は、東北大学所蔵の Derge 版チベット大蔵経目録 (通称: 東北目録)

¹³⁹ Pearson 1971, p. 371.

¹⁴⁰ 資料番号 6-002, p. 32.

¹⁴¹ 資料番号 6-001, p. 161.

¹⁴² Fonahn は語学に堪能で、数十の東洋言語に精通し、アラビアやペルシャの初期医学文献の研究書等を出版し、大学では中国語も教授している。

Norwegian Biographical Encyclopedia: https://nbl.snl.no/Adolf_Fonahn, Mende 1999 を参照。

と対照し、両Tanjurはほとんど一致するが、タイトルの相違やテキストの配列順序に違いがあることを指摘している。(p. 164-165)

Sørensenがオスロ大学図書館に寄贈した、その他のチベット語資料202点については、Per KværneがSørensenの伝記とともに目録を出版した。

6-002.

Per Kværne: A Norwegian traveller in Tibet; Theo Sørensen and the Tibetan collection at the Oslo University Library. New Delhi: Manjuśrī, 1973. xi, 105 p. (Bibliotheca Himalayica, series 1, 13)

Pt. 1: A biographical sketch of Theo Sørensen, p. 1-60.

Pt. 2: The Theo Sørensen collection of Tibetan texts, p. 61-102.

Prajñāpāramitā: Nos. 1-13. 2. Khams brgyad: Nos. 14-23. 3. Nyingmapa texts: Nos. 24-169. 4. Texts written by Brag-dkar Lama: Nos. 171-189. Miscellaneous texts: Nos. 190-202.

Title on Website: The older Tibetan collection (Theo Sørensen collection) at the University of Oslo.

<https://www.ub.uio.no/english/subjects/language-literature/tibetan/>

(BSBS D1.2.2.3, Lib. 222.92/KV)

チベット仏教とボン教の専門家であるKværneは、2. Khams brgyadに注目し、ヨーロッパでは今日まで出版されていない重要なボン教のテキストであることを指摘している。(p. 63)

Per Kværneにより寄贈されたチベット語資料の目録も電子出版され、上記2種の目録とともに大学図書館のWebsiteにて公開されている。

6-003.

Tibetan texts from Per Kværne's Library. Presented to the Oslo University Library in April 2009.

Title on a website: Additional catalogue of Tibetan texts donated by Per Kværne.

<https://www.ub.uio.no/english/subjects/language-literature/tibetan/>

モンゴル語の資料については、モンゴルで活動していたノルウェーの宣教師より寄贈された写本8点と北京版本2点を所蔵し、W. Heissigが目録を編纂し、1959年に出版した。

6-004.

Walther Heissig: A description of the Mongolian manuscripts in the University-Library

Oslo. In: AO, 23 (1959), 92-106.

<https://journals.uio.no/actaorientalia/issue/view/480>

Reprinted in *Buddhist poetry, thought and diffusion: being a collection of articles contributed by H. W. Bailey* [et al.], 2. New Delhi: International Academy of Indian Culture, 2010. p. 905- 919. (Śata-pīṭaka series, 631) ISBN 978-81-7742-090-51.

(BSBS E2.2.14.1.001)

10 点中 8 点が仏典であり、内容は序論にて詳述されている。序論では言及されていないが、写本記号は *Etn. Mus.*¹⁴³ であるから、チベット語資料と同様に民族学博物館から移管された資料である。写本については、書誌記述の他、関連する先行研究の書誌情報を記載し、仏典の北京版本については自著¹⁴³の参照番号を指示している。

Marta Kiripolská は 1998 年に同図書館を訪問し、さらに 10 点の写本が所蔵されていることを確認し、Heissig の記述法を採用し報告している。前述の Adolf Mauritz Fonahn 旧蔵写本 2 点も含む。

6-005.

Marta Kiripolská: More Mongol manuscripts in the University Library of Oslo. In: AO, 60 (1999), 178-190.

Title on a website: More Mongol manuscripts at University Library of Oslo (1999)

<https://www.ub.uio.no/english/subjects/language-literature/chinese/>

(BSBS E2.2.14.1.002)

以上、本稿では北欧 4 ヶ国に所蔵される仏典写本・版本コレクションの概要を目録中心に検討したが、仏典研究の一助となれば幸いである。

略号表¹⁴⁴

AO	Acta Orientalia.
AM	Asia Major.
ArchOr	Archiv Orientální.

¹⁴³ Heissig *op. cit.*

¹⁴⁴ 本稿における略号で Bechert 1990 収録分は、それに基づく。

- ARIRIAB 創価大学国際仏教学高等研究所年報 = Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University.
- BEFEO Bulletin de l'École Française d'Extrême-Orient.
- BSOAS Bulletin of the School of Oriental and African Studies.
- CAJ Central Asiatic Journal.
- EIr Encyclopaedia Iranica.
- IJ Indo-Iranian Journal.
- JA Journal Asiatique.
- JAOS Journal of the American Oriental Society.
- JPTS Journal of the Pali Text Society.
- JRAS Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland.
- JS Journal des Savants.
- JSOu Journal de la Société Finno-Ougrienne.
- OLZ Orientalistische Literaturzeitung.
- RET Revue d'Études Tibétaines.
- SO Studia Orientalia.
- TJ Tibet Journal.
- TP T'oung Pao.
- UAJb Ural-Altäische Jahrbücher.
- ZDMG Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft.

参考文献

- Aalto, Pentti 1950. Notes on the collection of Mongolian books in the Ethnographical Museum of Sweden, Stockholm. In: *Ethnos*, XV, 1-14.
(BSBS E2.2.16.1.002)

- Aalto, Pentti 1952. Le Mdo-mañ conservé à la Bibliothèque Universitaire de Helsinki. Helsinki. 21 p. (Eripainos: Miscellanea bibliographica, 6)
 Publications of the University Library at Helsinki, 23.
 (BSBS D3.6.002)
- Andersen, Dines 1924. A pioneer in Pali lexicography. In: A critical Pāli dictionary, 1. Copenhagen: Royal Danish Academy, p. iii-vii.
<https://cpd.uni-koeln.de/intro/trenckner>
 (BSBS M2.011(1), Lib. R829.833/CR)
- Bailey, H. W. 1961. Saka texts from Khotan in the Hedin collection. Cambridge: Cambridge University Press. vii, 191 p., plates. (Indo-Scythian studies: being Khotanese texts, 4)
 (Lib. 829.989/BA/4)
- Bechert, Heinz (hrsg.) 1990. Abkürzungsverzeichnis zur buddhistischen Literatur in Indien und Südostasien. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht. 243 p. (Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, 3)
https://digi20.digitale-sammlungen.de/de/fs1/object/display/bsb00040432_00002.html
 (BSBS Abbreviations, Lib. R180.320/BE)
- Borodaev, V. B. 2021. List mongol'skogo "zolotogo" Gandzhura iz Gorodskoi biblioteki Lincĥepinga s russkimi nadpisiami 1720 goda (A folio of the Mongolian "Golden" Kanjur with the Russian inscriptions dated 1720 kept in the Linköping City Library). In: Tibetologija v Sankt-Peterburge: sbornik stateĭ (Tibetology in St. Petersburg: collected papers), 2. Sankt-Peterburg: Peterburgskoe Vostokovedenie. p. 195-245.
http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=10617
 (BSBS E1.2.2.6.005, Lib. 186.131/PO2)
- Braarvig, Jens 2014. The Schøyen collection. In: From birch bark to digital data: recent advances in Buddhist manuscript research. Papers presented at the Conference Indic Buddhist Manuscripts: The state of the field, Stanford, June 15-19 2009. Ed. by Paul Harrison and Jens-Uwe Hartmann. Wien: Verlag der Österreichische Akademie der Wissenschaften. p. 157-164. (Beiträge zur Kultur- und Geistes-

geschichte Asiens, 80) ISBN 978-3-7001-7581-0.

(BSBS B1.1.002, Lib. 180.4/HA)

Brox, Trine & Zeitzen, Miriam Koktvedgaard 2017a. When Tibet came to Prince Peter: Tibetan-Danish relations through a stationary expedition in the 1950s. In: TJ, 42, 1, 13-35.

Brox, Trine & Zeitzen, Miriam Koktvedgaard 2017b. Prince Peter's seven years in Kalimpong: collecting in a contact zone. In: Transcultural encounters in the Himalayan borderlands; Kalimpong as a "contact zone". Ed. by Markus Viehbeck. Heidelberg: Heidelberg University Press. p. 245-272.

<https://heiup.uni-heidelberg.de/catalog/book/301>

Bumouf, E. 1829. Rapport fait au conseil de la Société Asiatique, sur la collection de manuscrits et d'antiquités rapportée de l'Inde par M. Bélanger. In: JA, 4, 452-461.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k93114h/f454.image>.

Feer, Léon 1899. Papiers d'Éugène Burnouf conservés à la Bibliothèque nationale. Augmenté de enseignements et de correspondances se rapportant à ces papiers. Paris: H. Champion. 26, 197 p.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k2557127.image>.

Review: Auguste Barth in JS, 1900, 57-58.

(BSBS M1.10.009(4) Lib.V129.103/BU)

Filliozat, Jean 1970. Notice sur la vie et travaux de M. George Cœdès (1886-1969). In: BEFEO, 57, 4-24, portr.

https://www.persee.fr/doc/befeo_0336-1519_1970_num_57_1_5408

(BSBS M2.048(1))

Godakumbura, C. E. 1955. Sinhalese literature. Colombo: Apothecaries'. xiv, 376 p.

(Lib. 929.86/GO)

Halén, Harry 1999. Baron Mannerheim's hunt for ancient Central Asian manuscripts. In: SO, 87, 109-116.

<https://journal.fi/store/article/view/45152>

(BSBS B1.2.3.5等)

Hammar, Urban 2022. The contribution to Tibetan and Buddhist studies by the

- Swedish/Austrian scholar Toni Schmid, Ph. D (1897-1972). In: TJ, 47, 1, 3-20.
(BSBS M3.033(1))
- Hara, Minoru 原實 1987. 北歐のインド学 (Indology of the North Europe). In: 東洋学報 (Journal of the Research Department of the Toyo Bunko), 68, 1-2, 075-084.
<http://id.nii.ac.jp/1629/00005573/>
(BSBS L1.2.19.002)
- Hedin, Sven 1926. Adolf Erik Nordenskiöld: en levnadsbeskrivning. Stockholm: Albert Bonniers. 378 p., [5] p. of plate.
(Lib. 278/HE)
- Hedin, Sven 1966. 探検家としてのわが生涯 (Mein Leben als Entdecker). 山口四郎訳 [Tr. by Shirō Yamaguchi]. 東京：白水社. 538 p. (ヘディン中央アジア探検紀行全集, 11)
German edition published in 1928.
(Lib. 292.2809/HE/11)
- Heissig, Walther 1954. Die Pekinger lamaistischen Blockdrucke in mongolischer Sprache; Materialien zur mongolischen Literaturgeschichte. Wiesbaden: Otto Harrassowitz. XV, 220 p., 18 p. of plate. (Göttinger asiatische Forschungen, Monographienreihe 2)
Review: J. W. de Jong in TP, 43 (1955), 301-318, reprinted in de Jong's Tibetan studies, (Swisttal-Odendorf, 1994), 214-226, (Indica et Tibetica, 25)
(BSBS E1.1.006, Lib. 183.01/HE)
- Heissig, Walther 1955. Zur technischen Durchführung der mongolischen Tanjur Übersetzung. In: UAJb, 27, 3-4, 222-234.
(BSBS E1.2.3.1.004)
- Heissig, Walther 1957. Zur Entstehungsgeschichte der mongolischen Kanjur-Redaktion der Ligdan-khan-Zeit (1628-1629). In: Studia Altaica; Festschrift für Nikolaus Poppe zum 60. Geburtstag am 8. August 1957. Wiesbaden: Harrassowitz. p. 71-87.
(BSBS E1.1.009, Lib. 829.500/PO)
- Heissig, Walther 1966. Zur Bestandsaufnahme und Katalogisierung mongolischer Handschriften und Blockdrucke in Japan. In: UAJb, 38, 44-91.

(BSBS E2.2.11.2.002)

Hesse, Willy 1968. Die Werke Sven Hedins: Versuch eines vollständigen Verzeichnisses. Stockholm: Sven Hedins Stiftelse, Staatens etnografiska museum. 132 p., plates. (Sven Hedin; life and letters, 1)

(BSBS M5.1.003(2), Lib. R292.9609/HE)

Hesse, Willy 1980. Die Werke Sven Hedins: ein Nachtrag. Stockholm: Sven Hedins Stiftelse, Staatens etnografiska museum. 24 p. (Sven Hedin; life and letters, 3)

(BSBS M5.1.003(3), Lib. R292.9609/HE)

Ishihama, Yumiko 石濱裕美子 2016. マンネルハイムのアジア旅行関連資料とそれに基づくチベット仏教徒の動向について (Photographs and antiquities of Tibetan Buddhism taken from Central Asia by C. G. Mannerheim in 1908 and interaction among Tibetan Buddhists beyond borders). In: 内陸アジア史研究 (Inner Asian Studies), 31, 145-163.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/innerasianstudies/31/0/31_145/_article/-char/ja/

Jacobsen, Werner 1959. Nepalesiske bloktryk: glimt af Nepals kunsthåndværk og religion (Nepalese woodcuts). In: Klum, 9, 146-165.

英文 : p. 161-165.

<https://doi.org/10.7146/kuml.v9i9.103047>

Jacquet, Eugène (Tr.) 1830. Notice sur la collection des manuscrits palis et singhalais de Copenhague. In: JA, 452-471.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k931166/f468.item>

(BSBSC1.2.5.1.001)

Jones, Schuyler 1996. Tibetan nomads: environment, pastoral economy, and material culture. Editor-in-chief: Ida Nicolaisen. London: Thames and Hudson. 463 p.

de Jong, J. W. 1977. Sanskrit fragments of the Kāśyapaparivarta. In: Beiträge zur Indienforschung: Ernst Waldschmidt zum 80. Geburtstag gewidmet. Berlin: Museum für Ind. Kunst. p. 247-255. (Veröffentlichungen des Museums für Indische Kunst Berlin, 4)

Reprinted in Buddhist studies by J. W. de Jong. Ed. by Gregory Schopen. Berkeley: Asian Humanities Press, c1979. p. 513-521.

(Lib. 129.103/WA)

de Jong, J. W. 1997. A brief history of Buddhist studies in Europe and America. Unified ed. Tokyo: Kōsei Publishing. 183 p. ISBN 4-333-01762-9.

(BSBS L1.1.049, Lib.180.7/JO)

Julien, Stanislas 1849. Concordance sinico-sanscrite d'un nombre considérable de titres d'ouvrages bouddhiques; recueillie dans un catalogue chinois de l'an 1306, et publiée, après le déchiffrement et la restitution des mots indiens. In: JA, 353-446.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k93154r/f353.item>

(BSBS L1.1.051, Lib. 081/TW/69)

Julien, Stanislas 1861. Méthode pour déchiffrer et transcrire les noms sanscrits qui se rencontrent dans les livres chinois. Inventée et démontrée par Stanislas Julien. Paris: Imprimerie impériale, 1861. v, 235 p.

<https://books.google.co.jp/books?id=bwUJAAAAQAAJ&dq>

(BSBS G3.2.21.002, Lib. V829.824/JU)

Kaneko, Tamio 金子民雄 1981. ヘデイン著書目録 [Bibliography of books written by Hedín]. 東京：日本山書の会. iv, 101 p., 22 p. of illus.

(BSBS M5.1.1.003(4), Lib. R222.803/KA)

Kaneko, Tamio 金子民雄 1982. ヘデイン人と旅 [Hedín: person and travel]. 東京：白水社. 304 p., 図版.

(Lib. 292.9609/KA)

増補改訂版：

ヘデイン交遊録 探検家の生涯における17人. 東京：中央公論社, 2002. 410 p.

Karashima, Seishi 辛嶋静志 2004. Sanskrit fragments of the Kāśyapaparivarta and the Pañcapāramitānirdeśasūtra in the Mannerheim Collection. In: ARIRIAB, 7, 105-118, 3 plates.

<https://iriab.soka.ac.jp/publication/aririab.html>

Karashima, Seishi 辛嶋静志 2005. Two Sanskrit fragments of the Pañcaviṃśatisāhasnikā Prajñāpāramitā in the Mannerheim collection. In: ARIRIAB, 8, 81-104, 4 plates.

<https://iriab.soka.ac.jp/publication/aririab.html>

- Kazama, Kiyozō 風間喜代三 1978. 言語学の誕生 比較言語学小史 [The birth of linguistics: brief history of comparative linguistics]. 東京：岩波書店. ii, 230 p. (岩波新書, 69)
(BSBS L1.1.051, Lib. 081/TW/69)
- Keping, Kseniia Borisovna 2003. Tangutskie ksilografiy v Stokgol'me (Tangut xylographs in Stockholm). In: Kseniia Keping: Poslednie stat'i i dokumenty (Last works and documents). Sankt-Peterburg: Izd-vo Omega. p. 54-73.
<http://kepping.net/raboty.htm>
(BSBS F6.2.5.1.001)
- Kojima, Yasutaka 小島康誉 2014. スタイン第四次新疆探検とその顛末 (The whole story of Sir Marc Aurel Stein's 4th expedition to Xinjiang in Central Asia). In: 仏教大学宗教文化ミュージアム研究紀要, 10, 1-163.
https://archives.bukkyo-u.ac.jp/repository/baker/rid_SB001000007655
- Kristensen, Frede Muller 1966. デンマークにおけるパーリ語および仏教研究 (Studies of the Pāli language and Buddhism in Denmark). 奈良康明訳 (Tr. by Yasuaki Nara). In: 駒澤大學佛教學部研究紀要 (Journal of the Faculty of Buddhism), 24, 34-42.
http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/18401/?lang=0&mode=2&opkey=R165776115421267&idx=11&chk_schema=100%2C200%2C300&facet_key=title
(BSBS L2.2.3.004)
- Kudara, Kōgi 百濟康義 1984. Chinese Buddhist manuscripts from Central Asia in Mannerheim collection. In: Proceedings of the 31st International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa, 2. Tokyo: Toho Gakkai. p. 995-997.
(BSBS G6.3.3.003)
- Machi, Senjurō 町泉寿郎 (ed.) 2021. レオン・ド・ロニーと19世紀欧州東洋学 旧蔵漢籍の目録と研究 [Léon de Rosny and European Oriental studies in the 19th century: catalogue and study of Chinese classics]. 東京：汲古書院. iii, 413 p. (日本漢学研究叢刊, 1)
(Lib. 220.04/MA)
- Matsubara, Hideichi 松原秀一 1986. レオン・ド・ロニ略伝 [Brief biography of

Léon de Rosny]. In: 近代日本研究 (Bulletin of Modern Japanese Studies), 3, 1-56.

https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-19860000-0001

Matsuda, Kazunobu 松田和信 2010. 中央アジアの仏教写本 [Buddhist manuscripts found in Central Asia]. In: 文明・文化の交差点 (The crossroads of civilization and culture). 東京：佼成出版社. p. 119-158. (新アジア仏教史 (A new history of Buddhism in Asia), 5: 中央アジア (Central Asia)) ISBN 978-4-333-02433-9.

(BSBS B1.2.3.005, Lib. 180.2/AJ/5)

Matsuda, Kazunobu 松田和信 2020. バミヤーン出土仏教写本研究の二十年 (Two decades of study on the Buddhist manuscripts from Bamiyan valley, Afghanistan). In: 東洋学術研究 (The Toyo Gakujutsu Kenkyu), 59, 2, 146-170.

松田和信氏の Academia.edu にて閲覧が可能。

(BSBS B1.2.4.3.008)

Mayeda, Egaku 前田恵學 1961. 北欧のインド学・仏教学界 その近況 (Recent situation of Indian and Buddhist studies in Northern Europe). In: 宗教研究, 35, 2, 98-103.

<https://jpars.org/journal/database/archives/790>

Reprinted in the author's 現代上座仏教の世界 (The world of contemporary Theravāda Buddhism). 東京：山喜房佛書林. p. 85-90. (前田恵學集, 3)

(BSBS L2.1.008, Lib. 181.9/MA/3)

Mayeda, Egaku 前田恵學 1962. デンマーク學士院の『批判的パーリ語辞典』その沿革と現状 (A report on the history and the present state of "A critical Pāli dictionary"). In: 東方學 (Eastern Studies), 24, 112-101.

Reprinted in the author's 現代上座仏教の世界 (The world of contemporary Theravāda Buddhism). 東京：山喜房佛書林. p. 91-109. (前田恵學集, 3)

(BSBS K16.3.001, Lib. 181.9/MA/3)

Mende, Erling v. 1999. Der Medizinhistoriker und Asiatologe Adolf Mauritz Fonahn (1873-1940); Wissenschaftskontakte und Wissenschaftspraxis in Norwegen in den

- ersten Jahrzehnten des 20. Jahrhunderts. In: *Studia Tibetica et Mongolica* (Festschrift Manfred Taube). Redigenda curaverunt Helmut Eimer [et al.]. Swisttal-Odendorf: Indica et Tibetica Verl. p. 225-234. (*Indica et Tibetica*, 34)
(BSBS D1.2.2.3.001, Lib. 222.91/TA)
- Mirkamal, Aydar 米爾卡馬力, 阿依達爾 2010. 普林斯頓大学圖書館藏回鶻文 <中阿含經>研究 (The Uighur Madhyama Āgama fragment preserved in the Gest collection of Princeton University Library). In: 京都大学言語学研究 (*Kyoto University Linguistic Research*), 29, 1-26.
<https://doi.org/10.14989/141809>
(BSBS F4.2.10.001)
- Mizuno, Kōgen 水野弘元 1959. *パーリ語文法 (A grammar of the Pali language; with supplementary essays on the history of Pali studies)*. 補訂版. 東京: 山喜房佛書林. vii, 330 p.
Supplement 1: *パーリ語及びパーリ仏教の研究の歴史 [Supplementary essay on the history of studies of Pali language and Pali Buddhism]*, 190-220.
(BSBS L2.1.004, Lib. 829.835/MI)
- Molbech, Christian 1827. Om Pali-sproget og om Pali haandskrifter i det store kongelige Bibliothek. In: *Nordisk tidsskrift særdeles for historie, literatur og konst*, 1, 67-77.
<https://books.google.co.jp/books?id=pS3AAAAMAAJ&printsec>
- de Nebesky-Wojkowitz, René 1958. Tibetan blockprints and manuscripts in possession of the Museum of Ethnology in Vienna. In: *Archiv für Völkerkunde*, 13, 174-209.
(BSBS D2.2.1.1.002)
- Nève, Félix 1856. *Mémoire sur la vie d'Eugène Jacquet de Bruxelles, et sur ses travaux relatifs à l'histoire et aux langues de l'Orient, suivi de quelques fragments inédits*. Bruxelles. 148 p.
<https://books.google.co.jp/books?id=VxKTJDISiJ8C&printsec>
(BSBS M1.3.001(2), Lib. V829/NE)
- Nishida, Tatsuo 西田龍雄 1976. 元刊西夏大藏經 [Xixia Buddhist canon printed in Yuan Dynasty]. In: *西夏文華嚴經*, 2. 京都: 京都大學文學部.
(Lib. 183.405/NI2)

- Nishiwaki, Tsuneki 西脇常記 2016. 中國古典時代の文書の世界 トルファン文書の整理と研究 (The world of documents in the classical age of China: the classification and study of Turfan documents). 東京：知泉書館. xvi, 392 p. ISBN 978-4-86285-239-7.
(BSBS G6.3.011, Lib. 222.80/NI)
- Nordenskiöld, A. E. 1881. The voyage of the Vega round Asia and Europe: with a review of previous journeys along the north coast of the Old World, 2. Tr. by Alexander Leslie. London: Macmillan.
<https://curiosity.lib.harvard.edu/expeditions-and-discoveries/catalog/38-990046385920203941>
(BSBS C1.2.17.1.001, Lib. 278/HE)
- Nordstrand, Ove K. 1958. Some notes on the discoveries made during the restoration of a Mongolian block-print in the Royal Library, Copenhagen. In: CAJ, 3, 4, 256-266.
- Nordstrand, Ove K. 1974. A note on Rasmus Rask and the Ceylonese manuscripts at the Library of the Wesleyan Mission, Colombo, in 1822. In: Journal of the Sri Lanka Branch of the Royal Asiatic Society, 18, 70-73.
https://noolaham.org/wiki/index.php/Journal_of_the_Sri_Lanka_Branch_of_the_Royal_Asiatic_Society_1974?uselang=en
(BSBS C1.2.5.1)
- Pearson, James Douglas (comp.) 1971. Oriental manuscripts in Europe and North America: a survey. Zug: Inter Documentation Co. lxxx, 515 p. (Bibliotheca Asiatica, 7)
(BSBS A004, Lib. R929.0000/PE)
- Pedersen, Bent Lerbæk 2014. Catalogue of Chinese manuscripts and rare books. Copenhagen: NIAS Press; Kongelige Bibliotek. xiii, 735 p. (COMDC, 9)
<http://norden.diva-portal.org/smash/record.jsf?pid=diva2%3A1227964&dsid=8467>
- Pelliot, Paul 2008. Camets de route, 1906-1908. Transcriptions du manuscrit original établies par Escarmonde Monteil pour le français; Huei-chung Tsao pour le chinois; Ingrid Ghesquière pour le russe; révision et avertissement de Francis Macouin; coordination par Jérôme Ghesquière. Paris: Indes savantes. 479 p., viii p. of plates. ISBN 978-2-84654-185-5.

(BSBS B1.2.3.7等, Lib. 222.80/PE)

Pettigrew, Thomas Joseph 1827. *Bibliotheca Sussexiana: A descriptive catalogue, accompanied by historical and biographical notices, of the manuscripts and printed books contained in the Library of His Royal Highness the Duke of Sussex in Kensington Palace, 1, pt. 1.* London: Longman.

https://books.google.co.jp/books/about/Bibliotheca_Sussexiana.html?id=AiVMAAAAYAAJ&redir_esc=y

Prince Peter of Greece and Denmark 1954. *The third Danish expedition to Central Asia: its work in the Himalayas.* In: *Himalayan Journal*, 18.

<https://www.himalayanclub.org/hj/18/>

Prince Peter of Greece and Denmark 1955. *Books from Tibet.* In: *Fund og Forskning*, 2, 113-124.

<https://tidsskrift.dk/fundogforskning/issue/view/4525>

(BSBS D2.2.6.1.003)

Prince Peter of Greece and Denmark & Jørgensen, J. Balslev 1966. *Physical anthropological observations on 5000 Tibetans from the 3rd Danish expedition to Central Asia.* In: *Anthropological researches from the 3rd Danish expedition to Central Asia.* København: Munksgaard. p. 3-56. (Historisk-filosofiske skrifter udgivet af det Kongelige Danske Videnskabernes Selskab, 4, 4)

(Lib. 292.9609/AN)

Ramstedt, Gustaf John 1912. *Ein Fragment mongolischen Quadratschrift.* In: *JSFOu*, 27: 3, 4 p.

Ramstedt, Gustaf John 1987. *フィンランド初代公使滞日見聞録 [Records of the first Finnish minister's stay in Japan]*. 坂井玲子訳. 東京: 社団法人日本フィンランド協会. 246 p.

原題: *Lähettiläänä Nipponissa: muistelmia vuosilta 1919–1929.* Helsinki: WSOY, 1950.

Ramstedt, Gustaf John 1992. *七回の東方旅行 [Seven travels to the East]*. 荒牧和子訳. 東京: 中央公論社. 258 p. ISBN 4-12-002124-6.

原題: *Seitsemän retkeä itään 1898-1912.* Helsinki, 1944.

<https://digi.kansalliskirjasto.fi/teos/binding/1925450?page=1>

英訳: *Seven journeys eastward, 1898-1912 : among the Cheremis, Kalmyks, Mongols and in*

- Turkestan, and to Afghanistan. Tr. from the Swedish & ed. by John R. Krueger. Bloomington: Mongolia Society, 1978. 277 p.
(Lib. 292.9609/RA)
- Rask, R. 1821. *Singalesisk skriftlære*. Kolombo. 16 p.
<https://books.google.co.jp/books?id=z0JAB9724IIC&printsec>
- Reuter, J. N. 1913-1918. Some Buddhist fragments from Chinese Turkestan in Sanskrit and "Khotanese". In: *JSFou*, 30: 37, 37 p., 9 plates.
(BSBS B1.2.3.5.001)
- Richthofen, Ferdinando von 2013. *リヒトホーフエン日本滞在記 ドイツ人地理学者の見た幕末明治 (Richthofen's stay in Japan: the end of the Edo period and the Meiji period as seen by a German geographer)*. 上村直己訳. 福岡：九州大学出版会. 236, 10 p., plates.
原題：Ferdinand von Richthofens Aufenthalt in Japan. Berlin, 1912.
- Schmitt, Rüdiger 2002. Spiegel, Friedrich (von). In: *Elr*. July 20, 2002.
<https://iranicaonline.org/articles/spiegel>
(BSBS M2.008(2))
- Shirasu, Jōshin 白須浄真 (ed.) 2014. *大谷光瑞とスヴェン・ヘディン 内陸アジア探検と国際政治社会 [Ōtani Kōzui and Sven Hedin: an expedition to Inner Asia and international political society]*. 東京：勉誠出版. 448 p. ISBN 978-4-585-22096-1.
(BSBS M5.1.004(11), Lib. 188.525/SH)
- Shōgaito, Masahiro 庄垣内正弘 2014. *The Uighur Abhidharmakośabhāṣya preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm*. Wiesbaden: Harrassowitz. 338 p.
(*Turcologica*, 99)
(Lib. 183.925/SH)
- Sims-Williams, Nicholas & Harén, Harry 1980. The Middle Iranian fragments in Sogdian script from the Mannerheim collection. In: *SO*, 51, 11 p., 4 p. of plate.
<https://journal.fi/store/issue/view/3269>
(BSBS F2.2.6.001)
- Sims-Williams, Ursula 2018. *Manuscript collectors and collections from the Southern*

Silk Road. In: ARIRIAB, XXI, 273-289.

<https://iriab.soka.ac.jp/publication/aririab.html>

(BSBSF3.1.014)

Sorimachi, Shigeo 反町茂雄 1984. 蒐集家・業界・業界人 [Collectors, industry and industry persons]. 東京：八木書店. xi, 390 p.

Spiegel, Friedrich von (herausgegeben, übersetzt und erklärt) 1845. *Anecdota Pālica: nach den Handschriften der Königl. Bibliothek in Copenhagen im Grundtexte*. Leipzig: Wilh. Engelmann. 92 p.

(Lib. 183.108/SP)

Strandberg, Elisabeth 1978. N. L. Westergaard 1815-1878. In: AO, 39, 5-22.

<https://doi.org/10.5617/ao.5124>

(BSBS M2.007(3))

Strandberg, Elisabeth 1980. Fausbøll and the Pāli Jātakas. In: *Journal of the International Association of Buddhist Studies*, 3, 2. 95-101.

<http://nbn-resolving.de/urn:nbn:de:bsz:16-jiabs-85255>

(BSBS M2.009(3))

Sueki, Yasuhiro 末木康弘 2023. フランス国立図書館に所蔵される仏典写本・版本のコレクション概観 目録を中心として (An overview of the collection of Buddhist manuscripts and blockprint editions in the National Library of France: with a focus on catalogues). In: *国際仏教学大学院大学研究紀要 (Journal of the International College for Postgraduate Buddhist Studies)*, 27, 83-155.

<https://icabs.repo.nii.ac.jp/records/2000010>

(BSBS A018)

Tanaka, Kazuko 田中和子 2018. 1908年、京都におけるヘディン歓迎行事とその特質 [Welcoming ceremony in Kyoto in 1908 and its characteristics]. In: *探検家ヘディンと京都大学 残された60枚の模写が語るもの*. 京都：京都大学学術出版会. p. 158-169. ISBN 978-4-8140-0149-1.

(BSBS M4.1.003(8), Lib. 292.2909/TA)

Taube, Manfred 1966. *Tibetische Handschriften und Blockdrucke*, 4 Bde. Wiesbaden:

Franz Steiner. (Verzeichnis der orientalischen Handschriften in Deutschland, XI, 1-4)

Teil 2-4:

<https://rep.adw-goe.de/handle/11858/00-001S-0000-0023-9ACD-8/browse?type=dateissued>
(BSBS D2.2.9.001, Lib. R929.3231/TI)

Tiessen, Ernst (hrsg.) 1933. Meister und Schüler: Ferdinand Freiherr von Richthofen an Sven Hedin. Mit einer Einleitung und Erläuterungen von Sven Hedin. Berlin: Dietrich Reimer. 148 p.
(Lib. 292.2809/TI)

Trier, Jesper 1972. Ancient paper of Nepal: results of ethno-technological field work on its manufacture, uses and history; with technical analyses of bast, paper and manuscripts. Copenhagen: Gyldendal. 275 p., illus. (Jutland Archaeological Society publication, 10)
Sponsored by the Royal Library, Copenhagen.
(BSBS B1.2.1.5.1.004, Lib. 585.6/TI)

U Tin Lwin 1976. Obituary: Dr. C. E. Godakumbura (1907-1977). In: Journal of Burma Research Society, 59, 1-2, 167-171.
(BSBS M2.064(1))

Umemura, Hiroshi 梅村坦 1980. 敦煌探検・研究史 [A history of the expeditions to Dunhuang, and studies on Dunhuang]. In: 敦煌の自然と現状. 東京: 大東出版社. p. 127-241. (講座敦煌, 1)
(BSBS G5.1.003, Lib. 222.81/TO/1)

Vande Walle, Willy F. 2021. Between Sinology and Japanology: Léon de Rosny and Oriental studies in France. In: Journal of Cultural Interaction in East Asia, 12, 1, 29-62.
<https://doi.org/10.1515/jciea-2021-2008>

Veit, Veronika 2019. Charles Roskelly Bawden 22 April 1924 – 11 August 2016. In: Biographical Memoirs of the Fellows of the British Academy, 18, 449-469.
<https://www.thebritishacademy.ac.uk/publishing/memoirs/18/>
(BSBS M4.034(4))

- Wahlquist, Håkan 2012. Hedin, Sven. In: Elr. Last updated: March 22, 2012.
<https://www.iranicaonline.org/articles/hedin-sven>
 First published vol. 12, fasc. 2, p. 136-139.
 (BSBS M5.1.003(9))
- Walravens, Hartmut 2000. Ferdinand Lessing (1882-1961): Sinologe, Mongolist und Kenner des Lamaismus; Material zu Leben und Werk, mit dem Briefwechsel mit Sven Hedin. Osnabrück: Zeller Verlag. 425 p., portr. ISBN 3-535-02491-9.
 (BSBS, M6.036(4), Lib. 222.004/WA)
- Walravens, Hartmut (hrsg.) 2012. Walther Heissig (1913-2005): Mongolist, Zentralasienwissenschaftler, Literaturwissenschaftler und Folklorist; Leben und Werk. Würdigungen, Dokumente, Forschungsberichte und Rundfunkprogramme auf Audio-CD. Wiesbaden: Harrassowitz. 460 p. (with 1 CD) ISBN 978-3-447-06822-2.
 (BSBS, M4.30(6), Lib. 222.6/HE)
- Walravens, Hartmut 2017. Charles R. Bawden (1924-2016) zum Gedenken. In: Monumenta Serica, 65, 1, 175-210.
 (BSBS, M4.34(3))
- Walravens, Hartmut (hrsg.) c2018. Walther Heissig (1913-2005): aus dem Nachlass des Mongolisten und Ethnologen - Nachlassübersicht - Briefwechsel mit Erich Haenisch, Lajos Ligeti, Käthe Uray-Köhalmi, John R. Krueger und Erik Haarh. Norderstedt: BoD. 219 p. ISBN 978-3-7481-8070-8.
 (BSBS, M4.30(7))
- Walravens, Hartmut (hrsg.) c2019. Aus dem Nachlass von Walther Heissig (1913-2005); Briefwechsel mit György Kara, Herbert Franke, György Hazai und Alice Sárközi sowie aus den Anfängen der Altaistenkonferenz (PIAC). Norderstedt: BoD. 217 p. ISBN 978-3-7392-1883-0.
 Katalog mongolischer Blockdrucke in London.
 (BSBS, M4.30(7))
- Watanabe, Kaikyoku 渡辺海旭, 1933. ヴィゴー・ファウスボエール先生を哭す [Weeping for Dr. Viggo Fausbøll]. In: 壺月全集, 2. 壺月全集刊行會編.

東京：壺月全集刊行會, p. 388-392.

First published in 1908.

(BSBS M2-009(1), Lib. 181.9/WA2)

Xinjiang weiwuer zizhiq danganquan 新疆維吾爾自治區檔案館, Fojiao daxue niya yizhi xueshu yanjiu jigou 佛教大學尼雅遺址學術研究機構 2006. 中瑞西北科學考察檔案資料 = Historical archival documents of Sino-Sweden scientific expedition to North-West China = 中國西北地域での中國とスウェーデン連合の科學考察に関する文書と史料. 烏魯木齊：新疆美術攝影出版社. 66, 188 p., 30 p. plates.

(Lib. 222.15/CH)

Yamamoto, Tatsurō 山本達郎 1969. セデス教授の業績 [Academic achievements of Professor Cœdès]. In: セデス：インドシナ文明史. 辛島昇[他]訳. 東京：みすず書房. p. 319-326.

(BSBS M2.048(5), Lib. 223/CO)

Young, R. F. and Somaratna, G. P. V. 1996. Vain debates: the Buddhist-Christian controversies of nineteenth-century Ceylon. Vienna: Institut für Indologie der Universität Wien. 236 p., illus. (Publications of the De Nobili Research Library, 23)

(BSBS L2.1.016, Lib. 184.6/YO)

Zieme, Peter (ed.) c2008. Aspects of research into Central Asian Buddhism: in memoriam Kōgi Kudara. Turnhout: Brepols. 483 p. (Silk Road studies, 16)

Kōgi Kudara: Bibliography of his works, p. 17-25.

(BSBS M5.3.020(3), Lib. 180.4/KU)

<キーワード>

仏典写本、仏典版本、目録、解題、書誌研究

Summary

An Overview of the Collections of Buddhist Manuscripts and Blockprint Editions in Northern Europe: With a Focus on Catalogues

Yasuhiro SUEKI

A huge number of Buddhist manuscripts and traditional blockprint editions have survived not only in Asia but also in such Western countries as France, Germany, the United Kingdom, Russia, and the United States of America. The public institutions or private persons in their possession have published numerous catalogues and/or various bibliographical materials dedicated to their collections. Getting the full picture of the entire extent of the bibliographical sources remains, however, a daunting task.

I hope this contribution will offer some assistance in this direction by providing an overview of the collections of Buddhist manuscripts and blockprint editions kept in Northern Europe. The paper gives relevant information on the catalogues and basic bibliographical tools necessary for making effective use of these collections. Further details are provided in those cases when there is something noteworthy about a particular collection, collector, or catalogue editor.

This survey covers the collections in the possession of the following institutions:

1. Royal Danish Library, Copenhagen
2. Helsinki University Library, Helsinki
(Renamed National Library of Finland in 2006)
3. National Library of Sweden, Stockholm
4. Museum of Ethnography, Stockholm
5. Uppsala University Library, Uppsala

6. University of Oslo Library, Oslo

The bibliographical works quoted in this paper are based on version 3.2 of my *Bibliographical Sources for Buddhist Studies: from the Viewpoint of Buddhist Philology* to be released in April 2024.

*Senior Research Fellow,
Buddhist Bibliography Project,
International College
for Postgraduate Buddhist Studies*